

内地農民と台湾東部移民村：『台湾総督府文書』の分析を中心に

荒武達朗

追記

本稿は『東アジア海域交流史：現地調査研究：地域・環境・心性』第4号、2010年に掲載された同名の論文「内地農民と台湾東部移民村：『台湾総督府文書』の分析」を増補したものである。原載時に紙幅の関係上割愛せざるを得なかった史料、図表を新たに盛り込み論旨の補強を行った。本稿の問題意識、課題、結論は旧稿のそれと変わらない。

はじめに

周知の通り1980年代以降、台湾史は独自の領域を築き認知されるようになった。日本統治下の台湾については、これをオランダ・鄭氏政権の統治以前から国民党政権遷台以後へと到る台湾史の脈絡の中で如何に評価するか、という問題関心の勃興により、支配・被支配という構図に限定されず多様な視点から議論されている。本稿が対象とする日本人農業移民およびその移民村を巡る問題も、開発、行政、治安、医療、衛生、文化、族群（エスニックグループ）関係など様々な視角から研究が進められている。例えば〔張素玠 2001〕は最も包括的に日本統治時代の日本人農業移民に目を向けており、〔陳鴻図 2005〕は水利をテーマとして台湾史の中に日本統治時代を位置づけようとしている。〔張振岳 2007〕〔廖経庭 2007〕〔張蓉峻 2008〕は、様々なエスニックグループとの関わりに着目して移民村の社会関係を論じている。大平洋一氏は寿豊郷戸政事務所にて移民村の一つ、豊田村の戸籍資料を調査し、村落内部の内地人と非内地人の間の関係を考察した⁽¹⁾。〔卞鳳奎 2006〕も聞き取り調査を実施し移民事業の概況と移民を巡る村落内の社会関係を論じている。大平氏と卞氏の研究、〔台湾省文献委員会 1999〕〔花蓮県青少年公益組織協会 2005〕が採録する聴取記録にも見えるようにフィールドワークという手法も併用されることが特筆に値するだろう。さらに〔黄熾霖等 2003〕や〔翁純敏 2007〕のような一般向け書籍の刊行の隆盛が社会の関心の高まりを直接に反映している。現在、台湾史の研究動向はその独自性に着目しそれを主体とする手法が顕著になりつつある。

(1) 〔大平洋一 2006〕。また大平氏には〔大平洋一 2004〕があり、史料の発掘に意欲的に取り組んでいる。

これは第二次大戦後の台湾現代史のたどった経緯に対する反動を背景とするが⁽²⁾、一方で台湾史研究が台湾以外に目を向けないという傾向も一部で目につく。この潮流において台湾社会の歴史の立場から移民を外在的な存在と理解するならば、彼らの台湾社会への関わりを検討すれば事足りる。しかしこのような姿勢は、そもそも出身地の福建・広東の要素を携えた漢民族移民が原住民と融合しつつ台湾社会を形成してきた過程を想起するまでもなく、偏っていると言える。近年の東アジア各地域の相互の交流をめぐる議論からも、送出处や移住先のみを切り取って人の移動を議論することの危うさもまた自明である。台湾が東アジア地域の中の台湾であることは前提として認識しておく必要がある。

国民国家の形成により人の移動がそれ以前に比べて制限されるようになった近代においても、東アジアという枠組みでの考察は有効である。例えば日本統治時代に日本帝国内に組み込まれた“外地”としての台湾もまたその否定できない姿であるからだ⁽³⁾。日本史、中国史、台湾史の何れの立場をとろうとも、東アジア地域の中の台湾を意識し、あるいはまたその領域の一部をカバーした日本帝国を意識しつつ議論を構築していく試みは、一定の意義を有するに違いない。日本帝国における台湾を検討する研究は〔矢内原忠雄 1929〕以来豊富な蓄積を有している。近年では内地に從属する外地という植民地支配論を相対化し、その構造の中に人びとが実際にどのように生きていたのかという社会史的アプローチも目立つようになった。本稿のテーマである人口移動の分野では特にそれが顕著である。内地と外地、加えて外地相互間の連関を前提として、各地の政治・経済・社会の諸相が人びとの移動と相互に作用した、という視点による研究が進んでいる⁽⁴⁾。台湾においては内地の諸地域、外地の朝鮮、南洋など、さらには帝国外の満洲地域、中国本土、東南アジアそれぞれとの関係が想定されている⁽⁵⁾。筆者はこの中でさしあたって台湾と内地の双方を視点においた研究を進めている。内地では明治初年、1868年以降北海道移民が次第に隆盛し、続いて明治18年（1885年）頃以降は当初北米

(2) この経緯並びにそれに対する反動については〔若林正丈 2008〕等を参照されたい。

(3) 本稿では“内地”“外地”という表現を多用する。日本帝国の外地は台湾、関東州、朝鮮、樺太、南洋を指し、強い権限を有する機関に統治され、内地に対して從属する立場、植民地という構図で理解されてきた。ただし人びとの感覚においては内地の北海道と沖縄もまた外地と考えられることがあり、満洲国もまた厳密に言えば日本帝国ではないのだが外地と称される。本稿が移動する人びとの目線に立った議論を重視する以上、日本本土の内地、それに対して日本人の活動領域として獲得された外地という当時の人びとの認識以上の意味は持たせないこととする。

(4) 例えば〔蘭信三 2008〕は帝国内外の人口移動を視角に日本帝国の新たな姿を照射している。

(5) 台湾より中国大陆や満洲国へ赴いた台湾人に関する調査や研究は、東アジア内の人的交流を考える上で注目値する。例として〔中央研究院近代史研究所〈口述歴史〉編輯委員会 1994〕〔許雪姬 2002〕を挙げる事が出来る。

を中心とした海外移民が本格化していく⁽⁶⁾。明治28年(1895年)に台湾が植民地として獲得されると、当地もその移住先の一つと目されるようになった。前稿[荒武達朗 2007]では徳島県を中心に台湾東部、花蓮南郊に位置する官営移民村(吉野、豊田、林田の三移民村)への移民析出の背景、移住先の社会と故郷の社会との関係を考察した。徳島県を題材としたのは同県が他県に先駆けて当地へ多くの移民を送出したことによる。総督府が官吏や技師を西日本各県に派遣し募集活動を展開した具体例とともに、同時期の徳島県では北海道庁の北海道移民や東洋拓殖株式会社の朝鮮移民の募集も並行して行われ、県外への移民が活発化していたことを指摘した。これに先立つ明治前半に提唱された北海道移民が県民の目を県外へと向けたのであり、それが後の日本帝国の拡大、台湾と朝鮮の植民地化を契機とする移民ブームの背景にあったとしている。

この議論を発展させるべく本稿は、移民たちが台湾への移民を生きる途として選択した経緯、彼らを巡る各官庁間の交渉、台湾へと渡り定着するまでの過程を考察する。これらの点については[台湾総督府 1919]及び移民の回顧録⁽⁷⁾などにも記載があるが、開墾・開村より経営の拡大に到るまでは概況程度にとどまっている。そもそも当時の人びとにとって常識に属することの記述は淡泊であり、加えて移民村の負の側面について言及されることは少ない。ここに登場する人びとは基本的には経営に成功した者であり、開墾の苦労や事業の紆余曲折を述べるにせよ、失敗者の視点に基づいた記述を遺していない。そこで本稿では分析にあたって各種刊行資料に加えて『台湾総督府公文類纂』(以下、『総督府文書』と表記)、当時台湾で刊行されていた新聞『台湾日日新報』等を用いる⁽⁸⁾。

この中で『総督府文書』の性格、沿革、有効性と限界性など利用上の留意点は[檜山幸夫 2003]に所収の各論考に詳細である。同書に収録されている[水野保 2003: 385-395]にみえる明治38年「台湾総督府官房並民政部文書保存規則」によれば、各局課が収受する文書は、大体案件結了後3年から7年後に総督府の官房文書課⁽⁹⁾へ集中され、そこで内容に応じて各門、各類⁽¹⁰⁾に分類、簿冊化される。つまり『総督府文書』の文書は局課ごとに束になって残され

(6) ただし移民は日本全国各地で均一に生み出されたわけではなく、地域によって移民の性格、目的地、ピークとなる時期も異なる。ここでその動向をまとめることは出来ないが、さしあたり[児玉正昭 1992][石川友紀 1997]を参照のこと。

(7) 回顧録としては以下の資料がある。[花蓮港庁 1928]は「附録」として「移民の感想」を収録している。[古藤齊助 1941:198-202]は1941年の清水半平氏(当時、吉野庄長)の回想、同書「附録」には1935年10月に行われた座談会の記録を収録している。この座談会では日本人入植以来の経緯が話し合われており記録として価値が高い。加えて清水半平氏には[清水半平 1971]という回想録もある。

(8) 『総督府文書』の利用については、国史館台湾文献館 <http://www.th.gov.tw/> 参照。

(9) 明治29年3月より総務部文書課、明治31年6月より民政部文書課、明治34年より官房文書課が担当。

(10) 明治38年4月段階で11門95類あり、同年6月に13門に変更された。明治28年より昭和20年にいたる門部の変遷は、[水野保 2003: 406-407] 参照。

ているのではなく、事案ごとにまとめられている。これらは法律制定の根拠、例規の基になるものが「永久保存公文類纂」として、法律命令の執行に関する訓令、指令、通牒、回答文書等が「十五年保存公文類纂」として保存された。この二種が現存する『総督府文書』の大部分を占めている。この他、「五年保存公文類纂」「一年保存公文類纂」などがあるが、標記の保存年限を越えると原則として廃棄される為、これら一年保存及び五年保存の文書は相対的に数が少ない⁽¹¹⁾。当事者たる総督府の官僚が重要、後に参照する必要ありと見なしたものだけが保存へと回された為、現在我々が閲覧出来る『総督府文書』には網羅的に当時の行政文書が含まれているわけではないのである。『総督府文書』はあらゆる情報を提供するものではないので、研究のテーマによっては全く的是な資料群ともなり得る。またこれらの『総督府文書』より得られる細密画的な情報を全体像の中に位置づける作業を怠るならば、木を見て森を見ずの誹りを免れない。このことを念頭に置いて利用するならば、疑いもなく『総督府文書』は極めて貴重な情報源である。なお『総督府文書』は特に総督府開府直後よりしばらくの間は関係各官庁、部局、個人間で交わされたあらゆる書類を簿冊中に綴じ込んでいる。次節以降で分析する文書には、その交渉の詳細が含まれており、本稿の目的である移民の定住を巡る細部を窺い知ることができるのである。

1. 台湾移民情報と内地

移民事業に応募する動機は、多くの移民が口を揃えて言うように台湾での土地獲得にあった⁽¹²⁾。前稿〔荒武達朗 2007: 94-98〕ではこれに先行する北海道移民によって人びとの目が故郷以外の世界へと向けられたことが、その土地不足というプッシュ要因とは別に機能したと論じた。人びとが見知らぬ土地へ赴くにはその決心を後押しする要素が必要である。その一つが台湾への移民が選択肢として妥当かどうかを判断する上で根拠となる情報の存否である。

台湾領有直後の台湾に関する情報は豊富かつ正確ではなかったが、移住候補地としての関心が高まっていった。内地の一部地域から総督府に対して移民可否に関する問い合わせが寄せられることもあった。明治38年(1906年)に静岡県榛原郡川崎町農会からの照会とこれに対する総督府の回答、つまり明治38年5月3日に殖産局にて殖農第三〇九号(殖は殖産局、農は農務課を表す)として立案され、6日に民政長官により民殖第七五二号(民は民政長官、殖は殖産局

(11) 現存する文書は永久保存公文類纂が4193冊、十五年保存公文類纂が3,225冊、五年保存公文類纂が88冊、一年保存公文類纂が4冊である。

(12) 新潟県出身の草間常吉氏は「最も低廉の価格にて土地を払下げると聞きましたので朋友二名と共に僅かの資金を持って大地主にでも成る考えで」渡台した(〔花蓮港庁 1928: 33〕)。高知県出身の西村豊治氏も渡台の理由を「人口は益々増える一方でありましたので、土地を沢山持って居るのではないし」と、香川県出身の大西万吉氏も同様に「何分にも耕地がせまくて、農業をするにも困難な所でありまして」と、それぞれ述懐している(〔花蓮港庁 1928: 47, 49〕)。

を表す)として決定された事案「農家移民奨励ノ目的取調方静岡県農会長問合ニ回答ノ件」にその一端を見ることが出来る⁽¹³⁾。この文書は5枚で構成されている。なお本稿では『総督府文書』の構成をアルファベットのA、B、C…と記載している。Aは1枚目、Bは2枚目を意味する。『総督府文書』のデータベースではそれぞれの頁を画像データ化しており、15桁の数字をファイル名としている⁽¹⁴⁾。注意を要するのは、附箋や別紙が添付されている頁は「附箋・別紙を取り除いた画像」「附箋・別紙の画像」「附箋・別紙を含めた全体の画像」というように3枚のファイルで構成されていることである。文書の標題は読者の検索の便宜を考え、データベースに登録されているものに準拠した。

さてこの文書の第1頁、つまりA(画像番号000048630230139)にはこの事案の内容、静岡県榛原郡川崎町農会の台湾移民に関する問い合わせに対して、台湾総督府殖産局長が回答した旨が記されている。B(画像番号0140以下、下4桁のみ記載)C(0141)はその川崎町農会の問い合わせの原文書、D(0142)E(0143)がこれに対する殖産局長名による具体的な回答である。

川崎町農会はBにて「台湾農業ノ有望ナルコト確實ニ有之候ハバ、当農会ノ事業トシテ農家ノ移住ヲ奨励致度候ニ付、御繁忙中恐縮ノ至リニ候エ共、左記ノ件御取調是非共何分ノ御回報ヲ賜り度、此啓御伺申上候也。明治三十八年三月八日」と、7項の事柄について問い合わせをしている。その各項は所有地取得の費用負担(未開墾地1万坪に付き5円で所有権を認められるというが、これは登記料か否か)、移住先・栽培作物の概況、移民と台湾人との関係、適当な移住人数及び携帯資金、開墾経費・現地人の雇用、水田見込地の存否と開墾労働力の確保、開墾地の地味というように些か思いつくままに列挙されている。

これに対して約2箇月後殖産局長の名で、開墾成功後に年賦にて地代を支払う制度について説明し(つまり川崎町農会側の理解は誤りであった)、具体的にDとEで各項について回答している。総じてAにおいて「本島ノ未開墾地ハ多クハ蕃界ニ接シ事業困難ナルノミナラズ、風土氣候モ異トナルガ為メ、衛生上充分ノ用意ヲ要スルハ勿論……」「移住ヲ企図セントスルハ早計タルヲ免レズ」と、農会の軽挙を抑える論調が続き、内地の楽観的な移民観をたしなめている。この後半の括弧の下りは立案時に記されているが5月6日の決定段階では朱筆にて削除さ

(13)「農家移民奨励ノ目的取調方静岡県農会長問合ニ回答ノ件」『総督府文書』冊号4863文号23・明治38年5月3日殖産局にて殖農第三〇九号として立案、6日民政長官により民殖第七五二号として決定。画像番号000048630230139~0143。

(14)例えば0000XXXXYYZZZZという画像ファイル名では、最初の4桁をのぞき5-8桁(X)がデータベースに登録される「冊号」、9-11桁(Y)が「文号」、残り4桁(Z)がその冊号の中での各頁の通し番号を意味する。基本的には文号1の文書は0001から始まることが多い。しかしその前にその簿冊の目録が添付されている場合などがあり、必ずしも0001から始まっているわけではないことにも注意が必要である。仮に冊号XXX文号1の文書が10頁で構成されているとすると、そのファイル名は0000XXXX0010001から0010までとなる。文号2は、0000XXXX0020011から始まる。

れている。その削除の理由は分からないが、安易な移民計画に当惑しつつも移民の導入の必要性を感じている当時の総督府の姿勢を窺い知ることが出来よう。

この農会の移住計画こそ未発に終わったが、領台後約10年を経て内地の一部の県にて台湾移民を組織的に送り出そうとする動きがあった。続いて見るように実際にそれが実現したケースもある。明治42年（1909年）福建に本拠を置く国策会社、三五会社の愛久澤直哉氏が岐阜県その他より台湾西部の彰化地方へと移民を導入させた事例が『台湾日日新報』に掲載されている。同公司は明治41年末までには既に土地の買収と内地での移民募集を開始していた。

「同庁下二林方面に廈門の愛久澤氏は五十万円を投じて千五百甲歩の土地を買収し大規模の農場を設置するの計画は、其後円満に進行し土地の買収其他を了せり。而して目下岐阜及び九州地方にて移民の募集中なるが、先頃岐阜県の某村より視察に來り一応の調査をなして歸りたる結果、年内に三百名移住すべき旨電報にて申し來りたるを以て同庁にては目下彼等を收容すべき家屋の建設中なり。……。」⁽¹⁵⁾

三五会社が九州と岐阜県にて移民を募集したところ、岐阜県のある村がこれに応じて実際に彰化を視察に訪れた。その後数百名の移民が入植することに決まった。

「三五会社の経営に係る二林の開墾地に岐阜県下より三百名の移民旧蠟中に渡來すべしとは既報を経しが、其後都合に依り二百名に減員し、愈々明後十二日（筆者註：明治42年1月12日）出發することに確定せしを以て二林にては目下其收容家屋の建設を取急ぎつつあり。……。」⁽¹⁶⁾

翌42年1月に当初想定した人数よりは減少したものの、それでも約200名の移民が渡台することとなった。ところがこの渡航時点になっても家屋の建設が完了していないなどの準備不足が明らかであった為、以下のように入植後の生活は順調なものとはならなかった。

「彰化庁下二林地方の内地移民に関しては再三報道を経たるが、更に其近状を報ぜば昨年渡台せし当時氣候風土に慣れざる為め衛生状態甚だ面白からざりしが、次第に風土に慣れ今日にては一人の病者だになく其経過極めて良好なり。……。」⁽¹⁷⁾

「移民部落は二林街より約十二三町にして北斗二林の交通路の側、林投の陰げ僅に風を防ぎ得る場所に三十九戸ある外他に十戸総計四十九戸あり。移民の総数百七十四人（辜頭榮の二十人を含む）、内男九十一、女八十三、二十六人の新潟県人を除けば皆岐阜県人なり。……。家屋と言わんよりは寧ろバラックと云う方真に近く軒先極めて短かければ風雨の時は壁の全体を洗われ内部まで滲むの虞あり。……。生活程度の極めて低き岐阜の山中より來れる農民なれば異郷千里の地にありて如斯家屋に住するも何等不安の色なく又不平の声なし。……。」⁽¹⁸⁾

(15) 「彰化の内地移民」『台湾日日新報』明治41年（1908年）12月18日。

(16) 「二林の内地移民」『台湾日日新報』明治42年（1909年）1月10日。

(17) 「二林の移民」『台湾日日新報』明治42年（1909年）2月5日。

(18) 「源成農場（上）」『台湾日日新報』明治42年（1909年）3月4日。

この報道には順調に進むであろう入植の未来図が描かれている。だが実際に入植した174名は劣悪な衛生状態や居住設備などに苦しんだ。この環境不適合という問題に対しては、この地域の移民のみならず他の私営移民や後の官営移民も等しく直面することとなる。結局翌明治43年（1910年）には入植者の動揺が見られ、大正9年（1920年）には完全に解体し失敗に帰した。⁽¹⁹⁾

台湾東部においても賀田金三郎氏が明治32年（1899年）11月に花蓮港郊外約3里の呉全城（後の賀田村域）にて開墾予約売渡の許可を得、明治34年（1901年）より開墾事業を開始した⁽²⁰⁾。この移民開墾は当初は台湾人を召募するというものであったが、明治36年頃より飢饉のあった福島県より家族併せて130名を導入し、本島人4、50名、原住民400名と共に甘蔗栽培に従事させた。明治39年（1906年）7月には水田耕作を計画し愛媛県より180名を移民させた⁽²¹⁾。しかしこれらはマラリアの流行や当地居住の原住民との衝突によって成果を上げることはなかった。賀田組という個人の事業には限界があったのである。この失敗を踏まえて賀田金三郎氏、荒井泰治氏、楨哲氏、原修次郎氏らが明治43年（1910年）10月に設立したのが台東拓殖合資会社である。同社は開墾、製糖、樟脳製造、牧畜などの事業を進め⁽²²⁾、再び熊本県から55戸の農家を募集して、開墾に従事させた⁽²³⁾。

この熊本県からの移民招致について『総督府文書』中の明治44年（1911年）1月11日に殖産局により殖移第一七号（殖は前述の通り、移は移民課を表す）として立案、12日に民政長官により民殖第九四号として決裁された事案「台東拓殖合資会社ト同社募集ノ移民間ニ於ケル契約條項并移住民乗船賃割引ニ関スル件」に詳細が載せられている⁽²⁴⁾。この文書は17頁で構成される。

A（0003）殖産局より、熊本県から台東拓殖合資会社についての照会があったことの報告、それに対して総督府民政長官名義で1月11日「台東拓殖合資会社ハ資本金三百万円。信用アリ。開拓事業ナル点ヲ困難アレドモ有望ト認ム」と回答する案が出され、翌日には民政長官の決裁を受けている。

B以降に熊本県、総督府、花蓮港庁、そして台東拓殖合資会社の間で交わされた原文書が綴じ込まれている。まずB（0004）によれば明治44年（1911年）1月11日総督府受領の電報で、熊本県が「台東拓殖会社ヨリ本県下ニ於テ労働者一五〇名募集ノ旨申出タルニ付、同会社ノ資産信用及事業ノ確否返電乞ウ」と問い合わせている。Bは電報訳文、CとD（0005、0006）は

(19) [赤木猛市 1929：第一編「総論」第二章「初期私営移民事業の経過」]。

(20) [西村虎太郎 1923：81]。

(21) [西村虎太郎 1923：85-86]。

(22) [西村虎太郎 1923：93-94]。

(23) [古藤齊助 1941：第十章]。

(24) 「台東拓殖合資会社ト同社募集ノ移民間ニ於ケル契約條項并移住民乗船賃割引ニ関スル件」『総督府文書』冊号5420文号1・明治44年1月11日殖産局にて殖移第一七号として立案・民政長官により民殖第九四号として12日決裁。画像番号0000542000010003～0019。

その原文書である。これに対する返答が前述Aの12日付の民政長官の回答と位置づけられる。

E以降Jまでは移民に対する渡航費割引願に関する台東拓殖合資会社、花蓮港庁、総督府間で交わされた文書を綴り込んでいる。

E (0007) 1月11日付 花蓮港庁長石橋亨氏より総督宛の「移住者渡航費割引願ノ件進達」。

F (0008) 1月11日付 台東拓殖合資会社社長荒井泰治氏より民政長官宛の「御願」。その内容は「熊本ヨリ約百六拾人ノ農夫ヲ移住セシムル事ニ計劃仕急速渡航セシムル為メ当会社技師農場長河村九淵ヲ熊本へ出張為致候ニ付テハ右移住者ニ対スル渡航費割引之恩典ニ預ラシメ度…」との申請である。

G (0009 附箋0010 全体図像0011) 1月11日殖産局立案の殖移第一七号の一部は13日民政長官の民殖第四八号に組み込まれ、割引證の交付が決定された。この文書の附箋(0010)には「急」と記されており、E、F及び後掲のHが直ちに検討、裁可されたことが分かる。14日には割引證が交付されたことが文書の欄外に朱筆で書き込まれている。

H (0012) 1月10日付 荒井泰治氏より総督宛の「移住農夫汽船賃金割引願」。

ここまですが1回目の割引證申請と受理の過程である。IとJはその約2週間後、2回目の申請をめぐる交渉過程を表している。

I (0013) 1月25日殖産局にて殖移第四六号として立案、31日民政長官の民殖第四八ノ一号として(つまり先のGの決定に組み込まれて)決裁され、追加して50名に汽船賃割引證を交付することとなった。

J (0014) は1月24日付の荒井泰治氏より総督宛の「移住農夫汽船賃金割引願」である。先のIはこれに対する決裁である。これによると農場主任河村九淵氏の引率の下、熊本県より明治44年(1911年)1月下旬に60名、同2月上旬に120名を門司港、基隆港を経て花蓮港へと送り、さらに50名を追加募集するとあった。

K以下は移民の実際の渡航状況の報告である。彼らが実際に何日に乗船し、どのように移住先に向かったかを逐次総督府へ連絡している。このような報告は本事例に限るものではなく個別の移民の例にも見られる。

K (0015) はカワムラ(河村氏)発信、1月23日総督府受領の電報原文である。原文の隣に電訳が記されている。「五十戸(二百三十人)一度ニ連レマス。割引許可書御下渡急ギ願イマス」と、熊本に出張し移民の募集にあたった農場長の河村九淵氏が報告している。

L (0016) は2月?日荒井泰治氏より総督宛の文書である。「当会社ニ於テ移住農夫募集致候ニ付テハ移住者トノ間ニ締結スル契約條項ハ別紙記載ノ通りニ有之候」というように、募集した移民と会社とが締結した契約の内容について報告をしている。以下、MよりO(0017~0019)はその契約書の雛形である。

この事案のように内地の県が先ず総督府に植民事業者の信用を確認し、その上で県内での募集を許可したのは興味深い。なお同社には成功を収めた事業もあったが、この開墾については先の賀田組の時期に行われたものと同様に難航した。結局期を同じくして開始された官営移民事業ほどの見るべき成果を上げることがなかった。総じて内地の台湾情報は不完全であり、実情を踏まえない移民が渡台を希望し、これと幾つか事業主体とが結びついて移民へと結実した。

しかしこれらの殆どは準備、資金の不足に加えて、人びとの環境への不適合、理想と現実との懸隔の大きさなどにより失敗に帰したのである。

以下の『台湾日日新報』の明治42年（1909年）から42年にかけて掲載された記事は、移民そのものの資質を問題としている。

「本島に於ける内地人移民は近来産業の発達に伴うて漸々増加し来り、二林に、苗栗に、蕃薯寮に、夫々稍や団体的の移民を為すものもあるようになり、且つ内地に於ても本島に移住せん希望を有するもの多く当局に紹介し来るもの頻々たる由なるが、内地人移民は大に歓迎する所なるも唯だ其の多きを欲して漫然歓迎するときは、却つて浮浪の徒を多からしめ移民の健全なる発達に悪影響を及すこととなる。……。」⁽²⁵⁾

「本島内民営移民の状況は屢々報ぜし所なるが、近時東部地方民営移民状態は官営移民の好結果なるに反し成績極めて不良にして台東拓殖会社の招致せる鯉魚尾、呉全城及び加禮宛等の移民は漸次減少しつつあり。之が原因は種々なるべきも主に会社当事者の営利的観念と移民の希望とが疎通融和を欠くのをめなるが如く、加禮宛移民の如き該地農場長の郷里に於て募集せるものにて比較的志操堅実なるものなるも会社の方針は依然出稼労働者として取扱いつつあるが故に、彼等は将来を慮り移住当時四十三名なりしもの今は三十名内外に減ぜり。而して之等減少者は概ね本島内にありて日傭労働に従事しつつあるも、其結果亦思わしからず今日の儘にては民営移民は内地人浮浪者を増加しつつあるの観あり。殊に西部に於ても曩に愛久澤農場移民の多数が阿猴街にて車夫となれるの例もあれば此際民営移民に対し何等かの取締規定を設くるの必要あるべしと云う。」⁽²⁶⁾

この2本の記事は、民営移民を排して官営移民事業を展開していく時期の総督府の認識を反映している。外地へ赴く者たちの中に内地社会からの脱落者が含まれており、これら“ひとはた組”ともいうべき漫然とした移民が各事業の失敗の原因であると目された。開発の不首尾とともに生業無く徒食する人びとが流入することもまた当局にとって看過出来る事態ではない。だからこそ次節で検討するように官営移民募集に際しては移民個々人の素質を厳しく問うべきであり、民営移民を取り締まるべきであるという論理に至った。次節ではこれら官営移民の採用過程に目を向け、どのような人びとが官営移民となったのかを考察する。総督府が当初より想定し、その刊行物が自賛するような夾雑物の存在しない移民村は果たして現出したのだろうか。

2. 官営移民事業の開始と移民採用手続の現実

先行したいくつかの私営移民の後に、日本人農民の定住の礎を築いたのが官営移民事業である。明治42年（1909年）に総督府は花蓮港庁（同年10月25日設置）管轄地域に入植地を設定した。さらに翌年2月の荳蘭移民指導所を皮切りに各移民適地に移民指導所が設置された。6月、

(25) 「本島移民に就て」『台湾日日新報』明治42年（1909年）3月6日。

(26) 「民営移民取締必要」『台湾日日新報』明治44年（1911年）5月28日。

荳蘭移民指導所は吉野村移民指導所に改称され、大正2年（1913年）4月に豊田村移民指導所、大正3年2月に林田移民指導所がそれぞれ開設された。これらは官営移民事業が停止され、移民業務の花蓮港庁への移管が決まった大正7年（1918年）3月末日まで存続し現地での移民村の業務取扱に当たった。移民は海外移民の成績と気候風土の順応性を考えて、九州、中国、四国の農民を移植させることが適当とされた。まず北海道移民の成績を考慮し明治42年（1909年）に徳島県において、その後続いて熊本、佐賀、福岡、山口、広島、愛媛、香川の各県へも総督府の官吏が派遣され募集活動を展開した。『台湾日日新報』明治43年（1910年）2月13日、明治44年（1911年）8月19日の記事からその具体的な内容を知ることが出来る。

「昨年未来東部移民募集の爲め徳島、香川、愛媛の三県下に出張し近く帰府したる移民課千葉技手の語る所によれば、同地方は従来比較的本島移民の多かりしにも拘わらず、本島の事情一般に知悉せられず加うるに朝鮮拓殖会社の移民募集あり、一般の注意は此方面に集中せられたるの観ありし爲め、募集著手の当初に於ては応募者皆無の有様にて甚だしく困難したり。募集の方法は当初概ね郡役所々在地に至り募集講話を行いたるに、傍聴者は概ね村長乃至有志等にて勿論彼等自身移住すべきものに非ず。講演席上に於ては村民に対し勧誘の労を採るべく承諾するも、移住民の増加は小作民の減少となり小作料従て昂騰すべきを恐れて可及的沈黙を守るの状況にて、移住希望者も遂に募集の有無すら知り得ざるの有様なりしが故に、漸次此弊を認むると共に直接村民の集合を利用して講話の方針を採りたるに、爾来続続希望者を出し香川県に於て八十戸、愛媛県に於て三十五戸、徳島県に於て四十三戸の希望者を得、内香川県に於て四十戸、愛媛県に於て五戸、徳島県に於て二十三戸を本期に於て採用するに至りたり。要するに一般民情は徳島県に於ては従来藍の産地として比較的投機的性質に富み自ら移住希望に就ても此傾向あるものの如く、香川県は之に比して比較的堅実の精神に富み居るものの如く感ぜられたり云々。」⁽²⁷⁾

「曰く台湾、曰く朝鮮、曰く樺太、曰く北海道と内地移民も聊か引張風の観ある今日、約一箇月半朝鮮及び内地各府県の視察を終え一昨日帰府したる野呂移民課長が往訪の記者に語る処の移民談を摘すれば左の如し。……。内地にありて重に視察したるは四国と中国なり。四国に於る愛媛、香川、徳島等は本島移住に対し最も熱心なる地にして特に徳島の如き已に多数移住者を出し居り其成績も見るべきものあり。移民自身又日常の通信に依て能く本島の実情を報道しつつあるを以て一般に結果良好なり。中国に於ては山口、広島に最も多き模様にして岡山亦尠からざる模様なるも、同県下は土地豊饒にして生活比較的容易なるが如きを以て到底他県の如く希望者を見る事困難ならん。……。」⁽²⁸⁾

前稿〔荒武2007〕にて指摘したように当時、北海道移民、朝鮮移民の募集が並行し、移民の獲得は熱を帯びていた。この記事によれば募集官は当初村長たちを通じた募集を行っていた。その効果が上がらなかつたので、次第に移民応募者となるべき人びと自身に対して直接応募を呼

(27) 「本島移民と四国」『台湾日日新報』明治43年（1910年）2月13日。

(28) 「内地と移民」『台湾日日新報』明治44年（1911年）8月19日。

びかける形式を採用し多くの希望者を得た。先に渡台した人々が故郷との通信のやり取りの中で、より正確な台湾情報をもたらしたことは注目に値する。これが更なる移民の呼び水となったからである。

総督府は移住先の概況、諸手続、渡航の手順などを紹介する『台湾官営移住案内』大正3年(1914年)刊行⁽²⁹⁾という冊子を作成した。この冊子は募集説明会で配布されるか、或いは府県に配布が委ねられた。先行移民のもたらした情報に加え、このような刊行物の配布により内地農民の間により正確な台湾及び移民の情報が拡がったと言えよう。ただしこの冊子に謳われる移住村の情景もまた現実に比すれば些か理想的に過ぎた。様々な施設が居住民の便宜を図り、家屋代金は半額が給与、初年度は主な作物の種子が給付、マラリア等の風土病の予防薬は当面無料、入院料・薬代は移住後三年間は半額免除、小学校の授業料は三年間は全額免除とされた⁽³⁰⁾。同書の第三「衛生」によればかつてのような瘴癘の地ではなく、「今は四民皆皇恩に浴し島内平穏となりしを以て、衛生上の設備も行届き、流行病も次第に減少し、マラリヤの如きも人々の養生に依りて容易に防ぎ得るに至れり」と、基本的に問題が解決しつつあると述べられている⁽³¹⁾。移住村の中で最初に基盤が築かれた吉野村の概況は「其他の風土病も漸次減少し東部台湾に於ける健康地なりと称せらるるに至れり」という⁽³²⁾。

この冊子からは実際の定住への困難は一切見えず、類書の『台湾に於ける農民の天国』⁽³³⁾の標題の如く希望に満ちあふれている。しかし大正年間の台湾東部では実際の定住への途は決して順調ではなかった。[張素玢 2001: 140-142]も論ずるように衛生問題は開村後しばらくたった後ですらも未解決のままであった感が強い。渡台以前に描いた理想と渡台後の現実との乖離は、先の民営移民においても然りであったが、後においても移民村の深刻な離農問題の一因ともなった。この点については第3節で再論する。

内地農村の余剰労働力は土地の獲得を強く求めていたが、総督府は先の民営移民の不振を踏まえて、無統制に移民を導入することには消極的であり、村落の中農以上の階層でなければ移民として採用しないことを原則としていた。採用にあたっては生業、身分、健康状態、素行及び習癖、教育程度、家族内の関係や故郷での信頼関係、生計及び携帯資金などが調査項目にあげられており、資産を持たない者は官営移民になれなかった。具体的に述べると台湾に永住する意志、身体、素行、家族携帯、旅費以外の携帯金(移住者2人は150円、3人は200円、4人は250円、5人以上は一人につき50円、この金額を超える現金か郵便貯金)、農業に従事すること、多数の移住者を仲介・主催にて渡台しないことが審査の対象となった。条件に合致した者が、移住願書、当該市町村長の身元証明書、戸籍謄本を添えて各県に出張する募集官か台湾総督府

(29) なおこの史料は [和田洋佳・荒武達朗 2010] として翻刻を行った。

(30) [台湾総督府殖産局 1914: 4-8]。

(31) [台湾総督府殖産局 1914: 3-4]。

(32) [台湾総督府殖産局 1914: 33-34]。

(33) [石坂荘作 1915]。その後半は [台湾総督府殖産局 1914] を抄録している。

殖産局に提出する。その後審査を経て移住許可が正式に決裁されるという手順を踏んだ⁽³⁴⁾。明治44年度（1911年度）では申請707戸中、採用は279戸であり、表面上は先述のような安易な移民の排除に成功したと言える⁽³⁵⁾。

これら採用者の渡台までの各種手続き及びその提出すべき様式は、おそらくは採用決定後の事情に属す為であろうが、[台湾総督府 1919] に詳しく記載されている⁽³⁶⁾。ところが人びとがどのような応募手続きを踏んだかについては[台湾総督府 1919] [台湾総督府殖産局 1914: 10-14] からも「移住願」「身元証明書」という様式の存在をうかがい知ることが出来るだけである。これ以外の例えば総督府側が交付する書類や各官庁、部局との交渉は具体的に明らかとはなっていない。

まずは応募と審査の流れを改めて確認しておこう。大正9年（1920年）1月14日に殖産局にて殖農第一二九号として立案され、2月24日に総務長官により総殖第四八一号として決裁された「移住許可並移住命令其他取扱方ノ件」は、大正7年3月末日の官営移民事業の停止、以後の移民業務の総督府から花蓮港庁への移管に伴う規則改正が記されている⁽³⁷⁾。この文書は20頁で構成されている。官営移民開始後約10年が経過した時点のものであるが、これには改正に伴う現行規定から新規定への変更点が朱書で記されている点で価値が高い。

A (0110 附箋0111 全体図像0112) B (0113)「花蓮港庁下官営移民村ハ大正七年三月三十一日ヲ以テ花蓮港庁ニ引継ヲ了シ、大正六年六月二十六日民殖第四三二三号及大正七年四月二十五日民殖第二五七二二号ニ依リ移民ニ対スル命令書其他様式中改正ヲ施シ移住命令従テ移民採用ヲ除ク外、其取扱方ヲ花蓮港庁長ニ委任相成候処、諸事引継ヲ了シタル今日移住命令ノミ当府ニ於テ覆スルハ事務ニ統一ヲ歎キ、相互ノ不便少ナカラザルニ依リ、補歎移民ノ採用ハ自今花蓮港庁長ニ委任シ移住命令及移民渡台ニ要スル船車割引券ハ庁長ヲシテ交付セシムル様、委任事項追加相成可然哉、案ヲ具シ仰高裁。」

大正6年6月26日に移民募集業務を花蓮港庁へ引継いだ、この段階では移住命令交付のみ総督府が担当している。大正7年3月末日に移民村を総督府から花蓮港庁へ移管した為、各種書類の提出先はこの段階で花蓮港庁となった。大正9年2月24日のこの総殖第四八一号にて移住命令書の発行を花蓮港庁へ移管することとなる。後の混乱を回避すべく総督府官吏が特に詳細を残すべきと考えられる為、規則改定に関する文書は保存されたようである。これにより [台湾総督

(34) [台湾総督府 1919: 92-98]。

(35) [台湾総督府 1919: 101-103]。数値は掲げられている表ではなく、本文の記述に従った。この許可人数の少なさは目的が「一時的的好奇心ニ駆ラルル者、僥倖ヲ頼ム者等ヲ絶対ニ排斥シ、専ラ著実純朴ナル農民ヲ募集セントスル」ことであつた為である。

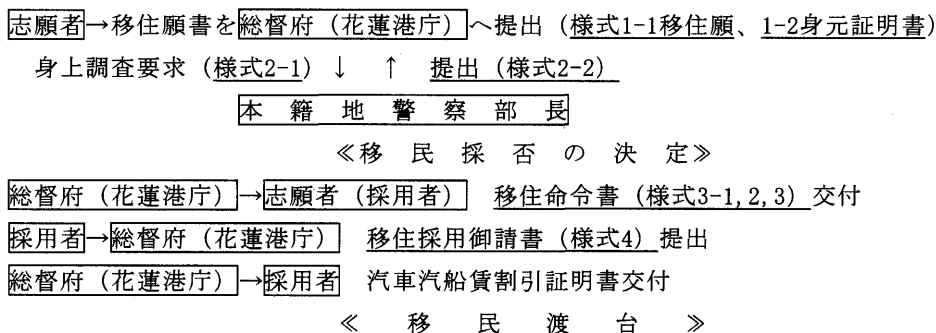
(36) [台湾総督府 1919: 415-446]。

(37) 「移住許可並移住命令其他取扱方ノ件」(『総督府文書』冊号6954文号5・大正9年1月14日殖産局により殖農第一二九号として立案、4月24日総務長官により殖産局長、参事官、財務局長、内務局長連名で総殖第四八一号として決裁)。画像番号000069540090110~0136。

府 1919] 卷末の様式集及び [台湾総督府殖産局 1914] よりは詳細な様式とその運用について知ることが出来る。

B (0113) C (0114) 「移住願書ヲ受理シタルトキハ別紙第一号雛形ニ依リ書式ヲ検査シ第二号雛形ニ依リ本籍地警察部長ニ身元調査方ヲ依頼シ、其回答ニ依リ移住民タルノ資格ヲ具有スルモノト認メタルトキハ、第三号雛形ノ移住命令書ヲ送付シ、第四号雛形ノ請書ヲ徴シ割引券ヲ下付ス。但シ既移住者ノ家族ニシテ分戸ノ上出願シタル場合ニアリテハ本籍地警察部長ノ身元調書ヲ要セズ。」

これを図示すると以下のようなになるだろう。



移民採用の審査は故郷の警察部長による身上調査書を必要とし、この調査回答により移住許可条件に照らして総督の決裁を経てその許否が決定される。それから移住命令書が志願 (採用) 者に交付され、これに対して採用者が請書を提出し、汽車汽船賃割引証明書が下付され渡台することになるのである。なお [台湾総督府 1919: 18-19, 437-447] によれば鉄道運賃は5割引、台湾渡航を目的とする者の内地航路・内台航路利用は5割引、八丈島・横浜航路2割引と設定されていた。一家族の渡台旅費の目安は四国・九州・中国では約50円、東北北海道で70円程度必要であった。

続いてこの規則の下、特にそれぞれの移民をめぐり各官庁間、部局間での如何なる交渉があって採用に到るかを検討する。

まず典型的な事例として明治45年3月1日殖産局により殖移第三五〇号として立案、民政長官により3月1日付で民殖第一五七二号として決裁 (実際は4月11日だが遡及して決裁) された「移住ニ関スル命令書下付 (清水多吉外百六十九名)」⁽³⁸⁾ を検討する。この文書は移住命令書発行についての一括処理報告であり、13頁で構成される。A (0006) において明治44年度総督府募集の移民として別紙の清水多吉ほか169名に命令書を下付する提案をしている。BからE (000

(38) 「移住ニ関スル命令書下付 (清水多吉外百六十九名)」 (『総督府文書』冊号2050文号1・明治45年3月1日殖産局移民課長により殖移第三五〇号として立案・3月1日民政長官により民殖第一五七二号として決裁)。画像番号000020500010006~0018。

7-0011) にかけてがその命令書の様式(未記入)である。百名を超える移住者それぞれの文書をファイリングすることは煩雑であるので、様式一部を添付することでこれに代えたものと推測できる。F(0012)において、明治45年(1913年)4月26日に殖産局から花蓮港庁へ移住命令書を別便にて送った旨を、殖移第三五〇号として伝達している。そしてG(0013)以降に165名分(4名分不足の理由は不明)の名簿が附されている。

この文書の内容は先述の様式及び運用の過程をそのまま踏襲するものである。このような正規の手順を踏まえ、ルーチンワークに則った作業は総督府の官吏の想定内の事、常識の範囲に属するため単なる報告として片づけられてしまい、おそらく各移民の提出した書類や各官庁、部局間の交渉を記した文書の現物は不要のものとしてある時点で破棄されたのだろう。この種の文書からは刊行資料と大差ない情報しか得ることが出来ない。

ところで次の明治43年10月殖移第二一二号として決裁された各移民指導所長宛の「渡台後移住民志願者取扱方通牒」のように、人びとが許可なく移民村に潜り込むことは規定として許されていなかった。

「近来台湾総督府ニ於テ内地移民ヲ募集シ東部台湾ヲ開拓セラルル旨郷里ニテ伝聞スト称シ、移住上何等ノ手続ヲ為サズ、突然渡台ノ上移民又ハ移民候補ニ採用方願出ツル者往々有之候ニ付調査セシムレバ、多クハ相当資金ヲ有セズ、又適當ノ経験者タルコトヲ認メ難キ者」であり「移住民トシテ採用スベキ者ハ当局ノ募集ニ応ジタル者又ハ予メ承認ヲ得タル者ニ非レバ一切採用セザル方針ニ有之候條、此際指導所ニ何等ノ名義ヲ以テ申出ヲ為シ又如何ナル事情ノ存スベキ者アルモ一切貴所ニ於テ採用無之様取計相成、……。」⁽³⁹⁾

もしこの記述をそのまま現実であると理解するならば、移民の採用は規定に厳格に則って粛々と執行され、各移民指導所等による現地採用は不可能であったと理解するにとどまるだろう。果たしてこの記述を即、実態及び実際の運用と考えることは出来るだろうか。例えば[花蓮港庁 1928: 44-45]に収められている浅沼八百太氏の回想によれば、

「携帯資金は途中の不幸で使い果し、村へ来たときは残り十二円三十銭しかなかったので、子供の葬式にも困った様な仕末です。」「お役人様から携帯資金が少ないからとて「採用できぬ」とのお断りを受けましたので、進退茲に谷まりまして、重ねて種々の事情を訴え、お役人へお願して漸く採用されまして非常に喜びました。」

という。浅沼氏は準備資金が渡台中に底をついた為、現地にて一旦採用拒否されたが、嘆願の結果採用された⁽⁴⁰⁾。つまりどうやら規定からは外れたケースも存在したようだが、その詳細はこの記述だけでは分からない。

総督府官吏の意図せざる事態に立ち至ると、おそらくは後の参考とする為であろうが、『総

(39) 「渡台後移住民志願者取扱方通牒」(明治43年10月 殖移第二一二号決裁)[台湾総督府 1919: 394-395]。

(40) [花蓮港庁 1928: 44-45]。なお浅沼八百太氏採用に関する文書は管見の限り『総督府文書』に現存していない。

『総督府文書』に種々の資料が綴じ込まれるようになる。先に検討を加えた規則改正に伴う文書とともに、これらからも規則運用の実際を知る手がかりを得ることが出来る。以下は移民の現地採用、追加採用、そして移民の辞退から再採用に到る顛末という3つの特殊なケースである。ここでようやく渡台、定住に至る過程が具体的に明らかとなる。おそらくは先の「移住ニ関スル命令書下付（清水多吉外百六十九名）」では廃棄されたと考えられる書類群も、これらにはそのまま綴じ込まれているのである。

まず第一例として明治43年（1910年）2月7日殖産局林務課長により殖移第一九号として立案され、2月8日に民政長官により民殖第二八一号として決裁された「伊藤吉次郎外二名移民候補トシテ採用ノ件」を見てみよう⁽⁴¹⁾。この文書は13頁で構成される。移民の採用は本籍地での警察部長名での身元調査が必要であり許可を得ぬまま渡台してはならなかったのだが、次のような特例も存在する。

A（0004 附箋0005 全体図像0006） 「近頃内地農民ニシテ新聞紙上等ニ於テ本嶋移民事業ヲ聞承シ、直接渡台スルモノ不尠。其内本局（筆者註：殖産局）ニ出頭願スル向モ有之。取調ノ処別紙伊藤吉次郎外二名（筆者註：残りは林実蔵氏と山平雪次郎氏）ノ如キ身元確實ニシテ身体強健、本目的ニ適合スルモノト認メラレ候ニ付、右ハ移民候補トシテ本年十一月迄移民指導所ニ於テ試用シ其性行等ヲ確メタル上、十一月以降更メテ移民トシテ採用致シ」てはどうか、この間は本人に日給50銭を支給してはどうかとの提案が殖産局より出された。B（0007）とC（0008）はそれぞれ山平氏と伊藤氏に関する審査の報告である。この文書のD以降には彼らの提出した書類が添付されている。

D（0009） 伊藤久次郎氏（吉郎氏は彼の長男）を戸主とする戸籍謄本。

E（0010） F（0011） 新潟市助役による伊藤氏の財産関係の証明書。

G（0012） 新潟市助役による伊藤氏の身元証明書。

H（0013 附箋0014 全体図像0015） 新潟市助役による「本人ハ農事開墾ニ適スルモノト認ム」との証明。

以上が伊藤氏の提出した書類であるが、規定において本籍地での審査の鍵とされる警察部による身元調査書は附されていない。

I 以降には北海道出身の山平雪次郎氏関係の書類が添付される。[花蓮港庁 1928：29]に掲載される農民の回想に依れば彼は移民事業の始まる前、明治42年2月に故郷の北海道を離れ、4月に家族とともに荳蘭移民指導所へと収容された。彼は故郷において漫然と「何んとかして海外に乗出し恢復の途を講じたいと云うことを考えて居た矢先に新領土台湾に渡れば土地を容易に払下げて貰えると云う事を聞きましたので」渡台し殖産局に出頭して、移民事業の紹介を受けた。再び当該の『総督府文書』を見るとI（0016）に殖産局による取調結果が載せられて

(41) 「伊藤吉次郎外二名移民候補トシテ採用ノ件」（『総督府文書』冊号5322文号1・明治43年2月7日殖産局林務課長により殖移第一九号として立案・2月8日民政長官により民殖第二八一号として決裁。この文書名は正しくは「伊藤吉次郎外二名……」である。）画像番号0000532200010004～0020。

いる。山平氏は官営移民事業開始前に渡台していたのだが、「別紙山本雪次郎移住民志望ニ付取調候処、本人ハ純然タル農民ニシテ明治二十六年ヨリ客年十二月迄北海道ニ於テ開墾ニ従事シ居リシガ、督府ニ於テ移民ノ募集アルヲ聞き客年十二月渡台シ、一時台北岡田組回漕店ニ身ヲ寄セ期ノ熟スルヲ待チ、本年一月本局（筆者註：殖産局）ニ来リ志願セシモノナリ。尚本人ハ軍隊出身者ニシテ身元確実且ツ身体強壯、志望モ堅固ニシテ移住民タルト適当ト認メ候」という。J（0017）K（0018）として本籍地北海道空知郡発行の戸籍謄本が添えられている。

続くL（0021）M（0020）が林実蔵氏に関する書類であるが、Mとして履歴書が添付され、Lに理由として本人が農業を営み性格も良く軍隊経験者であるから身元確実として採用に到った旨が記されている。

彼らについてはその他の本来必要とされる書類は添付されておらず、建前上は移民に採用されないはずであるが殖産局の調書のみで採用に到ったようである。規定には沿わなくても裁量による採用も可能であった。しかしそうであったとしても関係する移民指導所、花蓮港庁、殖産局ともに理由を明確にしておかねばならず、その理由書は『総督府文書』に保存すべきものとして扱われたのである。

第二例として追加採用分に関する文書、明治45年（1912年）4月23日殖産局移民課により殖移第二六二？号として立案され25日に民政長官により民殖第一八三二号として決裁された「移住ニ関スル命令書下付（杉原章次外一名）」を検討する⁽⁴²⁾。Aには杉原章次氏と沖本為蔵氏を明治44年度補欠移民として採用する案が載せられている。以下Eまでは移民採用に関する様式が綴じ込まれ、さらにその後にこの両名の移民採用から渡航に至るまでの様々な文書が添付されている。本文書は32頁で構成される。入り組んでいるので、予め簡単にその様式を整理しておきたい。

A（0019） 「移住ニ関スル命令書下付ノ件」 概要：杉原章次氏と沖本為蔵氏を明治44年度補欠移民として採用し、移住命令書を交付してよいかとの案。

B C D E（0020-0023） 移住命令書様式（氏名・住所等未記入 日付のみ明治45年3月1日）。

F（0024） 名簿：杉原章次・沖本為蔵両氏。

G（0025）H（0026） 【杉原分】移住申請書（本人）。

I（0027）J（0028 附箋0029 全体画像0030） 【杉原分】身元証明書（木田郡坂ノ上村役場）。

K（0031） 【杉原分】身上調査結果（香川県内務部長）。

L（0032 附箋0033 全体画像0034）【沖本分】移住願（本人）。

M（0035） 【沖本分】身元証明書（山口県玖阿郡愛宕村長）。

N（0036） 【沖本分】身上調査書。

(42) 「移住ニ関スル命令書下付（杉原章次外一名）」（『総督府文書』冊号2050文号2・明治45年4月23日殖産局移民課長により殖移第二六二？号として立案・25日民政長官により民殖第一八三二号として決裁）。画像番号000020500020019～0056。

O (0037) 【杉原分】身上調査書添え状 (香川県警察部)。

P (0038) 【杉原分】身上調査書。

Q R S (0039-0041) 【沖本分】村長推挙状。

T (0042) 殖産局3月12日立案・決裁 殖移第二六三号 「汽車及汽船賃割引証明書交付ノ件」杉原氏に対して交通割引証交付する。

ここまでが二人の移民採用に到るまでの文書である。以下はその渡航時に交わされた文書である。

U (0043) 電報 採用通知・割引券送付 (殖産局より杉原氏へ 3月12日発信)。

V (0044) 電報 採用通知・割引券送付 (殖産局より沖本氏へ 3月12日発信)。

W (0045) 殖産局12日立案・13日決裁 殖移民第二六二号 「汽車及汽船賃割引証明書交付ノ件」沖本氏に対して交通割引証交付する。

X (0046) 電報 (Y) 訳文。

Y (0047) 電報 門司港より乗船 (沖本氏より殖産局長へ 4月9日発信)。

Z (0048) 電報 沖本氏乗船し、そちらへ向かった (殖産局長より花蓮港吉野村移民指導所長へ 4月10日発信)。

AA (0049) 電報 (AB) 訳文。

AB (0050) 電報 今から乗船する (杉原氏より殖産局へ 4月13日発信)。

AC (0051) 電報 杉原氏17日の基隆丸でそちらへ (移民課より花蓮港吉野村移民指導所長へ 4月13日発信)。

AD (0052) 電報 (AE) 訳文。

AE (0053) 電報 杉原氏昨日到着 (吉野村指導所長より殖産局長へ 4月18日発信)。

AF (0054 附箋0055 全体図像0056) 殖産局4月30日立案・5月7日決裁 殖移第二六二ノ三号 移住命令書送付の件。

この文書は補欠移民の採用という、総督府官吏にとっては留意を要する事態をめぐるものであり、多数の原文書がそのまま綴じ込まれている。杉原章次氏は、本来は警察部の発行するもので事足りるのであるが (O)、香川県内務部による身上調査結果 (K) も提出している。また両名はM、Q R Sのように出身地の村長などによる推薦状を附している。これらは本来の規定では要求されるものではないが、慣例・慣習として添付されたようである。採用後、出発した彼らは門司港や基隆港でそれぞれ殖産局に到着・出発の報告をしている。この渡台途中の報告は前節で見た熊本県の私営移民の渡航とよく似ており、興味深い。

第三例として明治45年 (1912年) 5月30日殖産局にて殖移第四八六ノ一号として立案、6月4日民政長官により民殖第二三二四号として決裁された「移住ニ関スル命令書下附ノ件 (冬野源太郎)」を採り上げる。この文書は17頁で構成されている。移民としていったんは採用されたのだが、本人の都合で辞退、更にその後には再採用されたという非常に稀なケースを報告するも

のである⁽⁴³⁾。冬野源太郎氏は明治45年2月に土地割当を受けた後に移民取り消しを申請し、無断で台北へと旅行した。その後花蓮に帰来して再び土地の割当を要求した。移民指導所は彼に対して取調を実施した。その調書がLMN (0110-0112) にあたる。

Lによればまず殖産局から移民指導所に、「一、本人渡台後翻意、改悛ノ顛末。一、開墾功程及作付模様。一、資金過不足。一、意志の強弱。一、事業成否ノ見込」の各項目について調査報告せよとの指示が下った。対してMとNとして明治45年5月23日、吉野村移民指導所長事務取扱中田直温氏の報告(吉移第六四号として送付)が添付されている。それによると、

「冬野源太郎身元取調ノ件 殖移第四八六号ヲ以テ移民冬野源太郎身元取調ノ件了承、左記ノ通ニ有之候条□□度報告候也。一、本月二月土地割当後無断台北地方へ旅行シタルハ事実ニ有之。……一、本人ハ二月七日一端土地家屋ノ割当ヲ受ケタルモ、到着後病氣ノタメ意氣阻喪し、且ツ妻ハ妊娠中ニテ氣候ノ激変ニ伴イ到着後憂鬱病ニ罹リ、帰郷ノ意志切ナルモノアリシモ、出北帰村後ハ氣候モ順調トナリ、病氣平癒シタルヲ以テ永住ノ意志ヲ固メ、三月二十六日同郷人花蓮港庁巡查杉町今朝一ナルモノヲ仲介シ前非後悔再ビ土地家屋ノ割当ヲ受ケタルモノニ有之候。一、前項ノ如ク本人ハ口頭ニテモ書面ニテモ移民解除ヲ願出デタルコトナク、本人ハ無断旅行ヲナシ、妊娠中ノ妻ニ糺スモ要領ヲ得ズ、只ダ帰□セントスルモ分娩ノ上ニアラザレバ能ワズトノ事ニテ、□後移民続々到着シ家屋ノ払底ヲ告グル場合ナルヲ以テ、冬野ノ意志不確實ナルモノト認メ一端家屋土地ノ返上ヲ為サシメタルモノニ有之候。一、(省略)。一、(省略)。一、土地割当ヲ受ケタル後ハ鋭意耕耘ニ従事シ前非ヲ改メ出口シ居レバ、永住ノ意志確實ナルモノト認ム。一、前各項ノ通りニ付事業功スベキモノト被認候。」

このように最終的には冬野氏の移民村への居住を許可している。その理由は根拠を伴うものではないが、最終的に関係部局の官吏が「応募者が移民として適当」或いは「事情に斟酌すべきものがある」との判断に到れば、規定を退け、如何様かの理由を附して承認に到るのである。先の事例からも理解できるが、各種証明書の取り扱いを決して画一的ではなく、現場の判断が介在する余地が十分にあった。

[台湾総督府 1919] [台湾総督府殖産局 1914] は審査の厳しさや農民の楽土としての移民村というイメージを強調している。ただし実際の人事、募集においては移民として適当な人材であれば採用するという柔軟性があった。また応募、渡台したものの結局適合できず退去を望む者が存在していたことも推測できる。移民たちが一丸となって艱難辛苦の末に荒野を美田に変えていった、というモデルは一面の真実である。だがそこからこぼれ落ちてしまった人びと、総督府の立場からすれば移民の夾雑物ともいうべき存在については刊行資料の記述からは排除され、その存在をうかがい知れないのである。次節後半でこの問題について議論を深める。

(43) 「移住ニ関スル命令書下付(冬野源太郎)」(『総督府文書』冊号2050文号5・明治45年5月30日殖産局にて殖移民第四八六ノ一号として立案・6月4日民政長官により民殖第二三二四号として決裁)。画像番号00020500050097~0115。

3. 移民の定住と移民村の変容

かくして移民村に居を定めた移民はどのように生活の基盤を固めていったのだろうか。それぞれの移民に対しては、一戸に付き耕地1町歩あるいは3甲（約3ha）、宅地1段5畝を割り当てられ、その売渡価格は土地の等級にもよるが平均一戸分6、70円とされた。このほか家屋一棟（建築費400円）、農具、耕牛等が支給された。土地家屋の代金は無利息10年賦で、移住後4年目より納付させ、完納後に所有権を付与することとした。この土地の取得は移民たちにとって最大の関心事である。まず彼らは「官有原野予約売渡願」を提出する。これに対して「予約開墾地成功売渡許可」が下されてから開墾に従事することが可能となる⁽⁴⁴⁾。そして開墾が成功した暁にはその翌年より定められた地代を納付しなければならない。地代完納後に最終的に「官有森林（原野）予約売渡報告」によって上記の所有権付与が確定される。

『総督府文書』には土地売渡までの過程で移民と総督府の間で交わされた文書が個人ごとにまとめられて保存されている。本稿末の附表にもその一端が見えるが、一例として「○○○○予約開墾成功地売渡許可」という類の件名を附された資料はこの一連の個人の書類を合冊したものである。この中の一人分の「官有原野予約開墾成功地売渡許可」の典型的構成は次のようになっている。

- A [移民氏名] 予約開墾地成功売渡許可願ノ件 例：大正5年2月1日立案。
- B 予約売渡許可地売渡願 例：大正4年4月1日。
- C [移民氏名] 願官有原野予約売渡許可ノ件 例：大正2年1月27日立案。
- D 理由書様式。
- E 命令書 大正2年2月25日－12月31日を成功期間とする。
- F G H 参照規則。
- I 官有原野予約売渡願 例：明治45年3月18日。

※A～H及びIが独立した文書を構成する場合有り。

またこれとは別の冊子に「官有森林原野予約売渡報告」が各人分、それぞれ1枚ずつ（土地の形状を描いた図面が添付される場合有り）ファイルされている。標題に多少の字句の異同はあるが本稿末の附表にある「○○○○官有森林原野予約売渡報告」という件名の資料がそれにあたる。

以下、その具体例を徳島県出身の桑原春蔵氏の事例により検討する⁽⁴⁵⁾。氏は[花蓮港庁 1928：39-44]にも回想を記しており、模範的な移民の一人として目されていた。

- A (0201) は「桑原春蔵予約開墾地成功売渡許可ノ件」である。「大正四年四月一日附願

(44) [台湾総督府 1919：415-423]。明治44年9月6日 府令第六四号「台湾官有森林原野予約売渡規則」。

(45) 「官有原野予約開墾成功地売渡許可（桑原春蔵）」（『総督府文書』冊号2549文号10・大正5年2月1日立案、民殖第九七五号として決裁〔決裁日時判読できず〕）。画像番号000025490100201～0209。

大正二年二月二十五日附指令第六四一四号ヲ以テ予約売渡ヲ許可シタル花蓮港庁蓮郷吉野村字宮前丙二 一八 官有原野成功面積 三甲〇分八厘八毫一絲売渡ノ件 許可候條左ノ通心得ベシ。…… (以下地代と年賦についての記述)」とあり、下の売渡願に対する許可と位置づけられる。

B (0202) はその前年に桑原氏が開墾完了後に殖産局に提出した「予約売渡許可地売渡願」(大正4年4月1日)であり、その土地の座落、面積、土地種別(畑など)、建築敷地の面積が明記され、更に「右台湾官有森林原野予約売渡規則ニ依リ予約売渡御許可ノ処、今回全地墾成候ニ付御売渡相成度、此段奉願候ナリ。附記 地代ハ十カ年分納ヲ致度」とある。

続いてC (0203)「桑原春蔵出願官有原野予約売渡許可ノ件」、大正2年1月27日殖産局にて立案、2月7日民殖第三九九号として決裁された文書が添付される。これは桑原氏が殖産局に提出した開墾許可申請(I)に対するものである。その内容は「明治四十五年三月十八日附願、花蓮港庁蓮郷吉野村字宮前丙二、一八 官有原野面積參甲壹分五厘九毫壹絲予約売渡ノ件許可候條、台湾官有森林原野予約売渡規則ヲ遵守スルノ外、別紙命令書ノ通り心得ベシ。(空欄)年(空欄)月(空欄)日 総督」という。

D (0204) の理由書は定式に則ったものであり、内容は大同小異である。貸付料、地代の納付に関する注意が記される。

E (0205) が命令書である。Cに言及される“別紙命令書”がこれである。「一、成功期間ハ大正二年二月二十五日ヨリ大正二年十二月三十一日迄トス。二、地代金ハ金七〇(拾?)貳円六拾五銭トシ、開墾全部成功ノ翌年ヨリ十年以内ノ年賦ニ依リ之ヲ分納スベシ。……。」と売渡にむけての条件が記されている。F~H (0206~0208) が参照規則である。

最後にI (0209) として桑原氏が総督宛に提出した「官有原野予約売渡願」(日時不明だがおそらくはCの記述より明治45年3月18日と判断できる)が添付されている。座落と面積が記された後に「右ハ台湾官有森林原野予約売渡規則ヲ遵守シ予定ノ通無相違、成功可致候間、該地予約御売渡被成下度、此段奉願候也。」と記されている。ここまでが桑原氏の「官有原野予約開墾成功地売渡許可」の概要であり、時間を遡りながら書類が綴じ込まれている。この一連の文書の保存期間は十五年の扱いであった。

諸手続を経た後に、「官有森林原野予約売渡報告」が作成され上記の所有権付与が正式に認められる⁽⁴⁶⁾。先の文書が所有権承認にいたる過程で交わされた書類群であった為に十五年保存扱とされたのに対して、これは別冊子にまとめられ永久保存扱とされた。以上二種の文書は『総督府文書』の中に膨大に遺されている。後者のみならず前者のような十五年保存扱いの文書すらも廃棄されず大量に現存している理由は、土地所有権という微妙な問題に関係するものだからと推測できる。

ところで例えば申告面積と開墾面積に相違が発生した場合や定められた開墾期間中に予期せ

(46) 「官有森林原野予約売渡報告(桑原春蔵)」(『総督府文書』冊号6967文号1・大正9年10月20日・総内第四九九〇号)。画像番号: 0000696700010055。

ぬ事態により延期せねばならなくなった場合は、総督府及び関係部局による調査が行われ、それぞれの間で交渉が取り持たれる。『総督府文書』には、後の参考とする為にこれらの経緯を記す書類が綴じ込まれるのである。

例えば「予約開墾地成功売渡報告（西岡伊三郎）」は9頁で構成される文書である⁽⁴⁷⁾。A（0355 附箋0356、0357 全体画像0358）として大正11年（1922年）3月20日付の総内第三〇六三号「予約開墾地成功売渡報告」で西岡氏への土地所有権譲渡が完結したことを示している。ただしこの事案は大正5年2月20日附の「官有原野予約売渡願」に記載されている開墾面積と殖産局移民課の割当台帳の数値に相違があった為、花蓮港庁へ差し戻し、再調査という経緯をたどった。この再調査の中で行き違いがあり、C（0360）の大正6年（1917年）7月10日殖産局にて立案、17日に殖整第二四八二号として決裁された「西岡伊三郎官有原野予約売渡願ニ関スル件」によれば、殖産局長より花蓮港長宛に「本件願書ニ不備ノ点アリ、大正五年十一月十八日付殖整一〇八二号ヲ以テ願書返戻再調方照会セシ処、今ニ回答無之、支障少カラザルニ付キ至急御回答相成り度、右照会ス」と書類不備に対する催促が為された。

しかしこれには花蓮港庁長飯田章氏が花殖第二六二八号として殖産局長宛にB（0359）「本件ニ関シテハ大正六年一月九日付花殖第八〇号ヲ以テ訂正願書ヲ送付シ、大正六年五月十八日付指令第一四一七五号ヲ以テ既ニ許可相成居候条、御了知相成度、右回答ス」と報告している。解決済みの事案とはいえ、このような官庁間の些細な行き違いに際して交わされた文書も保存されている。

移民は花蓮港庁、殖産局移民課を通して総督宛名義の申請書を提出する。最終的に殖産局側におさめられている台帳と申請書の間に数字の異同がなければ、移民に土地所有権が付与される。その所有権付与の過程は、ルーチンワークに則った文書には見えないが、万一数字に食い違いがあれば、逆に殖産局から花蓮港庁へ問い合わせがあり、花蓮港庁が移民に対する聴取などの対応を取った。

続いては大正3年（1914年）に発生した台風の為、開墾の遅延を余儀なくされ、成功期限の延期を申請した事案がある。大正5年（1916年）9月21日決裁の「官有原野予約売渡許可地成功延期願許可（浅沼八百太）」がそれであり、6頁で構成されている⁽⁴⁸⁾。ここには先に見た構成AからIの内、F G Hの規則は含まれていない。それ以外は順番の異同はあるが全て同じである。ただしAとBは、浅沼氏が開墾を成功させていないので当然のことながら添付されていない。その代わりに次のaとbが附されている。全体の構成は以下の通りである。

a（0030） 官有原野予約売渡許可地成功延期願許可ノ件 大正5年9月7日殖産局にて立案
大正5年9月21日民政長官により民殖第五一八二号として決裁。

(47) 「予約開墾地成功売渡報告（西岡伊三郎）」（『総督府文書』冊号7294文号7・大正11年3月20日・総内第三〇六三号）。画像番号000032940460355～0366。

(48) 「官有原野予約売渡許可地成功延期願許可（浅沼八百太）」（『総督府文書』冊号6378文号4・大正5年9月21日決裁）。画像番号000063780040030～0037。

- b (0031) 官有原野予約売渡許可地成功延期願。
- C (0032) 浅沼八百太出願官有原野予約売渡許可ノ件 大正3年8月7日殖産局にて立案、大正3年8月15日民政長官により民殖第三五五二号として決裁。
- D (0033) 命令書 大正3年8月20日—大正4年12月31日を成功期間とする。
- E (0034) 理由書様式。
- F (0035 附箋0036 全体図像0037) 官有原野予約売渡願 大正三年五月二七日。

さてこのbに所載の「官有原野予約売渡許可地成功延期願」には其の土地の座落、面積が記され、其の後に「右ハ大正四年十二月三十一日迄ニ全部成功可致筈ノ処、大正三年八月九月ノ両度猛烈ナル風水害ヲ蒙リ地相ニ変化ヲ来シ之レガ復旧ニ多大ノ労費ヲ要シ、到底右期限内ニ成功致兼候條、事情御参酌ノ上特別ノ御詮議ヲ以テ成功期大正五年十二月三十一日迄延期相成度、此段奉願上候也。大正四年十二月三十一日。」とある。これをうけて翌年9月に次のような決定が下された。それがaの「大正四年十二月三十一日附願 大正三年八月二十日附指令第一七九九二号ヲ以テ予約売渡ヲ許可シタル花蓮港庁蓮郷豊田村字大平一五六、三〇六、一五九、五九、中里五三番面積三甲六分三厘一毫八糸大正五年十二月三十一日迄成功延期ノ件許可ス」である。このように浅沼氏は大正3年の台風の為に危機に直面したが、開墾期間を延長することによって何とか生活基盤を固め直し、経営を軌道に乗せることが出来た。その後〔花蓮港庁 1928：44-46〕にも回想録を収録されるような模範移民となり得たのである。なおこの延期願の申請の事例は後掲の表2内の記述にも散見される。

開村後10年を経る頃、許可地に対する開墾義務を果たし所有地とする農民たちが続々と生まれつつあった。多くの回想録が述べるように、この間の移民村の発展は決して順調なものではなかった。特に大正元年、3年の暴風雨は甚大な被害を与え、家屋が倒壊、農地も打撃を被り移民は負債を抱えることになった⁽⁴⁹⁾。医療衛生も改善の余地が多々残されており、ツツガムシ病やマラリアが猛威を振るった。後の昭和7年(1932年)8月19日に花蓮を訪問した拓務省の官吏は、官営移民事業を成功とは言い難いと評価し、その理由を衛生状態の不良、経営資金の不足に求めている⁽⁵⁰⁾。昭和6年(1931年)に刊行された『吉野村概況書』には次のようにまとめられている。

「本村ノ経済状態ハ天災ノ有無ニヨリ農作ニ豊凶アリテ若干ノ消長ハ免レザルモ、畢竟スルニ移住以来大正七年迄ハ概ネ収支相償ワザル状態ナリシガ、大正八年以来漸次収入通増シ支

(49) 「花蓮港庁に於ける官営移民地林田村及び豊田村は今回の暴風の低気圧上陸地点なりしを以て全村殆ど破壊の運命を見たり。即ち家屋の倒壊及び農作物の損害にて殊に甘蔗は約三割の被害ある見込みなるが、目下移民当局者は該地に出張中なれば夫々応急工事を進捗中なる可く、唯吉野村のみは暴風雨防禦に対する材料豊富なりしを以て被害極めて僅少に止まりしと。」「暴風雨と移民村」『台湾日日新報』大正3年(1914年)7月10日。

(50) [尾田満・井手瑞穂 1932]。

出ヲ償ウテ余リアルニ至レリ。」⁽⁵¹⁾

大正7年（1918年）以前には農家の経営が不安定であったが、その後情況は好転したという。しかし大正12年（1923年）に吉野圳が完成してからは吉野村では改善されたとはいえ、それ以外の豊田村や林田村では未だに水利問題が深刻であった⁽⁵²⁾。経営を軌道に乗せられなかった移民の一部は退去を余儀なくされた。『吉野村概況書』の「昭和四年ノ末期ヨリ昭和五年ノ初期ニカケテ二十数戸ノ北海道転出移民ヲ出シ」との記述からもまとまった数の離村者が出たことが知られる⁽⁵³⁾。

このような苦難を克服して豊かな移民村が実現されたのだ、というのが多くの回想録や総督府の刊行資料、そして現在においても語り継がれ再生産される移民村のイメージであろう。これは事実ではあるが成功者の視点によるものであることには留意が必要である。失敗者はここから捨象され移民村における例外的な存在として目されてきた。

さて1931年頃には農戸間の土地所有面積の不均等さも目立ってきた⁽⁵⁴⁾。土地は一戸あたり3甲の割当であったが、10甲以上を所有する農家が4戸、5甲以上が29戸というように所有地を拡大するものが現れている。彼らが移民村における本来あるべき模範的な移民像と考えて良いだろう。3甲以上が176戸と、最も厚い階層を形作る。ところが一方で2甲以上が40戸、1甲以上が20戸、1甲以下が24戸と、当初の面積よりも下回る農家もまた無視できない層を形成していることが知られる。大正から昭和に代わる頃、すなわち入植後約15～20年が経過した頃には移民村の様相も変化しつつあった。成功者の視点からは経営が徐々に安定へと向かい、内地に匹敵する理想的な農村風景が拡がりつつあったとされる。ところが日本人の定着を図り、日本内地の農村を移植するという目的を果たせず、移民の転業、退去も深刻であった事態が『台湾日日新報』の記事に見える。昭和4年（1929年）のある農民の投書には次のように記されている。

「豊田村一農生 内地人農村とは総督府で招致した花蓮港庁下の三官宮移民村を主とし、台東庁下に於ける台東製糖会社の移住せしめた鹿野村及び花蓮港庁下へ賀田金三郎氏の移住せしめた賀田村を呼ぶのであるが、賀田村は今や殆んど跡もなく一人の存在者なく鹿野村は僅かにその残骸を止めて居るのみである。……。然るに已に二十年を経過せる今日三移民村の実情如何と云うに実に寒心の至りに堪えぬものがある。人口も戸数も年々減少の一路をたどるのみで頻々と転業者を出してる、斯くの如く移民の権利を放棄する所以のものは、勤労と収支と相償わず到底安んじて職に忠実なるを得ぬ実情に置かれてあるからで、農民の苦心は一通りのものではない。然に此等の実情は大官連等の巡視に際しては悉く事実を隠蔽し現住者に非ざる者も数字に計上し、立ち腐れになって居る家屋などは決して案内せず良い所許り

(51) [吉野村居住民会 1931: 14-15]。

(52) [花蓮港庁 1928: 54-55] の「移民の感想」内の品川友次郎氏の回想。後に本文中に引用する「移民整理ニ関スル件」のE (0187)。

(53) [吉野村居住民会 1931: 3]。

(54) [吉野村居住民会 1931: 12]。

を吹聴し表面のみを糊塗して居るため、三移民村は花蓮庁下の誇りなりなどとてもなき賛美を浴びせられ現住民は何れも苦心して居る次第である。殊に長男以外二男三男達はその前途全く暗黒で時に土地の払下を願い出しても二年や三年は許可されるのか、されぬのか音沙汰もない不親切さ、漸く鉄道部の工夫や店員となって口を糊して居る始末である。……。」⁽⁵⁵⁾理想的な農村風景の影で離村者が増えていること、また長男以外の子どもの生計問題が顕在しつつあることが述べられている。総督府も刊行資料においては認めてはいないものの、この事態に憂慮する姿が『総督府文書』に見える。大正15年（1926年）11月26日殖産局にて殖農第一八八五号として立案、昭和2年（1927年）3月2日総殖第三五四二号として決裁された「移民整理ニ関スル件」（25頁で構成）には次のように報告されている⁽⁵⁶⁾。

E (0187) 「官営移民村吉野村移民ノ一部ハ既ニ地代金ヲ完納シテ土地ノ所有権ヲ獲得シ、其他ノモノモ大部分近く完納ヲ見ントシ、将ニ所有権ヲ附与スベキ時期到来致候。然ルニ大正十二年頃迄ハ三村共ニ水利潤沢ナラズ、農業ノ収益甚ダ鮮ナク、其大半ハ自家用飯米ノ生産ヲモナスコト能ワズ、加ウルニマラリア黒水熱恙虫病等風土病ニ罹リテ斃ルルモノ尠カラズ、到底生活ノ安定ヲ得テ墳墓ノ地ト定ムルニ足ラズトナシ、或ハ家事ノ整理ニ名ツケ或ハ転地療養ト称シ、多数内地又ハ村外ニ旅行転出シー時移民村ノ基礎動揺シタルヲ以テ、庁ニ於テモ大ニ之ヲ憂慮シ、埤圳ノ拡張、米作ノ奨励、其他農産ノ増殖、衛生設備ノ改善等ヲ行イ、極力現住者ノ慰撫定着ニ努ムルト共ニ、一方村外ニ転出シタル者ニ対シテハ市町村役場ヲ經由シ又ハ其引受人ヲシテ帰村方ヲ督促セシメタルモ、現住者ニシテ農業ヲ経営スル見込ナキモノ及帰村セザルモノ等別表ノ通有之候。……。」

故に許可なく離村した者の土地等を処分し、移民を整理すべきであるという下りが続く。資料中にある“別表”については、三移民村の内吉野村のデータが最も整っているのをこれを利用し加工して後掲表1、2としてまとめた。吉野村は大正5年度（1926年度）には戸数327戸、人口1,498人であったが、子女の結婚等による分戸、出産による人口増加があったにも関わらず、昭和6年度（1937年度）には296戸、1,461人へと漸減している⁽⁵⁷⁾。さらに表1によれば大正末年頃には69戸、つまり大正5年に比べれば2割程度の農家が既に農業から遊離し、離村同然であったことを示している。表2には農業を忌み、移民村を離れて花蓮港に住み、或いは帰郷してしまう事例が散見される。

かろうじて籍を置いている者も、所有権の移転（前述の通り総督府より官有原野の所有権を正式に認めてもらうこと）の後に退居しようと企図していた。かれらの家屋や土地は隣人知人の管理に委ねられるものもあった。これが先に見た移民村で進行していた土地の兼併、不均等分配の背景の一つであろう。表2の「土地」の項目に見える「〇〇引受」がそれである。さら

(55) 「移民村農民の叫」『台湾日日新報』昭和4年（1929年）6月18日夕刊。

(56) 「移民整理ニ関スル件」（『総督府文書』冊号7295文号2・大正15年11月26日殖農第一八八五号として立案、昭和2年3月2日総殖第三五四二号として決裁）。画像番号000072950150183～0207。

(57) [吉野村居住民会 1931：4-5]。

に土地を集積しつつある者の中での「非移民」や小作人の「本島人」の存在が目を引き。この頃は水利施設の完成に象徴されるように、移民村の基盤も整いつつあったとされる時期である。成功を収め移民村での生活を充実させていく農民もいる一方で、転業・離村する者も約2割占めた。この空白に台湾人が入り込み、混住が進行しつつあった。もはや日本人だけの移民村とは言い難く、台湾人の存在は無視できなくなっていた。[張振岳 2007] [廖經庭 2007] [張蓉峻 2008] が論ずるように台湾西部から東部へと入殖する人びとが増加し、その中には移民村の小作人として生活する者だけでなく、土地を開墾し所有権を獲得する者もいたのである。総督府もその刊行物も公には認めることは出来ないが移民村は確実に“台湾化”していた。

おわりに

日本人農民の離農と移民村への台湾人の浸透は、総督府にするならば憂慮すべき事態であった。先の『台湾日日新報』昭和4年の投書、『総督府文書』昭和2年（1927年）の「移民整理ニ関スル件」の論調はまさにそれを表現したものである。この観点は日本の植民地支配の功績と罪過という観点から進められた研究にも継承されている。台湾への官営移民が成功あるいは失敗のどちらであったかを評価することは、実は総督府の官僚の視点とそれほど懸隔あるところではない。

台湾史の脈絡に立てばどうだろうか。この事態は大正から昭和へ代わる中、かつて原住民以外は少数の漢民族しか居住していなかった台湾東部の開発が軌道に乗った結果であると言える。つまり離農や台湾人の浸透という移民村の再編は、当地域全体の社会経済が成長・充実した結果、一面では人びとに対する生業と雇用を創出しつつあったことがその背景にある。今一度表2を通覧すると一部の人びとが花蓮港などで農業以外の産業に従事していたことが分かるが、これはそのような暮らしを営む路が整いつつあったことを示している。子弟の教育を考えた場合には、やはり条件の良い台北や内地に目が向くのも当然であると言えよう。日本人の離農も彼ら自身の視点に立てばよりよい暮らしをしたいという自然な欲求に従うものである。以下の『台湾日日新報』の大正8年（1919年）と大正9年の記事からは、当初より故郷との連関を絶ちがたく保っている者、多角的に生きる道を探っていた者の姿が見える。

「官営移民村と私営移民村とを同時に視察することが出来た。……。即ち督府の方針が官営移民を打ち切って、営利会社の移民事業に或る程度の保護を与え、同時に相当の監督をなす事に変更されたのは、機宜を得た処置と云う可きである。官営移民の吉野村に墓地が無く、死者のあった場合には骨にして布教所に預けて置くと言ふ心掛けは嬉しく無い心掛けである。そして花蓮港の町の色町で此吉野村から金を借りて居らぬ家は少ないと言ふ事実を聞かされた時、何故に日本民族は斯く迄の楽園をきらって単に自己が生れた土地と言ふに過ぎない故郷なるものに愛著心を持つのかと不思議に感じた。……。」⁽⁵⁸⁾

(58) 「全島一周記（四） 浮き腰の移民村」『台湾日日新報』大正8年（1919年）6月17日。

「花蓮港に存在する所謂花柳界なるものは、此の新天地を開拓した移民村の人々で大分賑わっている云う。移民村の経済上の発達が当然かかる方面に於ける余財の消費が行われることは、自然の法則とも云うべきものであるが、之を以て見れば今日の移民村の人びとが、祖先の地を後にして新らしき村の建設に向って来たその当年の意気と堅実味の強弱の程度が、僅か数年後にして漸く前途の目鼻が決いて来た今日に見ると云うのは喜ばしくない現象である。……。」⁽⁵⁹⁾

この記事は官営移民事業の停止直後、官による保護を廃し私営移民へと回帰すべきとの論調が主流であった時期に執筆された。先に引用した官営移民事業着手時の『台湾日日新報』の記事と比較すれば、同様に移民それぞれの資質や態度に批判を加えている点が共通しており興味深い。個々の移民は、志操堅固ならざる者を排除しながら移民の資質を高め理想的な村落を建設しようという総督府の目的に従うほど単純ではない。移民の姿はより多様であり、それぞれがもって“したたか”であった。彼らにとって官営移民村の成功や失敗は個人の幸せに関わる大問題ではないし、生活の手段や場は移民村の提供する範囲を既に超えていた。大正末年・昭和初年以降、台湾東部の日本人社会も質・量ともに充実し、加えて西部からの台湾人移民も増加し、既存の原住民社会とも融合した姿へと変容しつつあった。総督府が憂慮する移民村の動揺とは、日本統治時代の台湾東部社会の成熟の反映であると考えられる。

それ故に、特に大正末年以降の移民村のみに対象を限定した考察には限界がある。本稿冒頭で説いた東アジア、日本帝国の中の台湾という視点の有効性と同様に、台湾史の範疇においても台湾の中の台湾東部移民村という視点は意識する必要があるだろう。

最後に本稿末の附表「昭和初年官営移民氏名・本籍及び総督府文書対応表」に対して説明を補足しておきたい。本表は〔赤木猛市 1929〕巻末に収録される附録一「台湾農業植民の各個別経営概要及び氏名一覧」表を基にして、各戸主に対応する『総督府文書』の存否を調査したものである。時点はおそらくは昭和3年（1928年）と推定される。この表の冊号の項目に書かれる「未発見」とは、対応する文書がデータベース（本稿註8参照）に存在しないことを意味する。保存年限が過ぎた事による「破棄」、戦中戦後の混乱による「散逸」があったことが想定される。各文書を調査することにより、移民それぞれの本籍地や割当地の地番などの詳細が判明する。これらのデータを集積していくことで、移民村の土地割当情況、家屋・割当地の配置などが明らかになるだろう。もっとも〔大平洋一 2006〕が先鞭をつけたような戸政事務所での綿密な調査を実施すれば、移民村のより詳細な人員構成や土地分配情況が明らかになるだろう。本表の作成は、それに先行する便宜的な作業である。

(59) 「東部台湾随行記（一五） 官営移民村」『台湾日日新報』大正9年（1920年）6月5日。

【参考文献表】

●日本語単行本

- 赤木猛市 1929 『台湾に於ける母国人農業植民』 東部台湾開発研究資料第三輯、台湾総督府殖産局
- 蘭信三 2008 『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』 不二出版
- 石川友紀 1997 『日本移民の地理学的研究：沖縄・広島・山口』 榕樹書林
- 石坂荘作 1915 『台湾に於ける農民の天国』 台湾日日新報社
- 尾田満・井手瑞穂 1932 『台湾及南支那視察日誌』 拓務省（タイプ印刷）、後に『台湾近現代史研究』4、1982年所収、本誌は緑蔭書房より1993年に復刻、第4号は全2巻中の第2巻所収
- 花蓮港庁 1928 『三移民村』 花蓮港庁
- 古藤齊助 1941 『領台後の花蓮港史談』（原著は1941年に校了しているが未刊行、ジャプラン、鹿児島市より1999年に復刻）
- 児玉正昭 1992 『日本移民史研究序説』 溪水社
- 清水半平 1971 『官営移民吉野村回顧録』 清水半平（個人）
- 台湾総督府 1919 『官営移民事業報告書』 台湾総督府
- 台湾総督府殖産局 1914 『台湾官営移住案内』 台湾総督府殖産局（〔和田洋佳・荒武達朗 2010〕）
- 西村虎太郎 1923 『賀田金三郎翁小傳』 芳誼会編纂
- 檜山幸夫 2003 『台湾総督府文書の史料学的研究：日本近代公文書学研究序説』 ゆまに書房
- 山口政治 2007 『知られざる東台湾：済生が綴るもう一つの台湾史』 展転社
- 矢内原忠雄 1929 『帝国主義下の台湾』 岩波書店
- 吉野村居住民会 1931 『吉野村概況書』 吉野村居住民会
- 若林正文 2008 『台湾の政治：中華民国台湾化の戦後史』 東京大学出版会

●日本語論文

- 荒武達朗 2007 「日本統治時代台湾東部への移民と送出地」『徳島大学総合科学部人間社会文化研究』14
- 大平洋一 2004 「住民の手記に見る台湾東部豊田官営移民村の生活環境：史料としての「小松兼太郎一代記」」『史峯』10
- 大平洋一 2006 「台湾東部花蓮港庁における内地人移民村の発展と変化：豊田村内および周辺地域におけるエスニックグループ構成の変化を中心に」『現代中国』80
- 卞鳳奎 2006 「日本統治時代台湾の日本人移民情況：花蓮県の吉野村を中心にして」『南島史学』68
- 水野保 2003 「台湾総督府及び地方庁の文書管理制度論」〔檜山幸夫 2003〕所収
- 和田洋佳・荒武達朗 2010 「翻刻と紹介 台湾総督府殖産局『台湾官営移住案内』一九一四年」『徳島大学総合科学部人間社会文化研究』17

●中国語単行本

- 中央研究院近代史研究所〈口述歴史〉編輯委員会 1994 『日抛時期台湾人赴大陸経験』、(『口述歴史』第5・6期、中央研究院近代史研究所)
- 花蓮学学術研討会 2007 『花蓮学 第一屆学術討論會論文集』 花蓮県文化局

花蓮県青少年公益組織協会 2005 『花蓮地区日本官営移民村生活飲食文化資源採集案成果報告書』花蓮
県文化局

呉翎君 2008 『後山歴史与産業変遷』国立花蓮教育大学郷土文化学系

翁純敏 2007 『吉野移民村与慶修院』花蓮県青少年公益組織協会

黄熾霖等 2003 『發現豊田：一個日本移民村的誕生与発展』行政院文化建設委員会

陳鴻図 2005 『活水利生：台湾水利与区域環境的互動』文英堂出版社

許雪姬 2002 許雪姬訪問『日治時期在〈満洲〉の台湾人』口述歴史叢書、中央研究院近代史研究所

台湾省文献委員会 1999 『耆老口述歴史（20）花蓮県郷土史料』台湾省文献委員会

張素玢 2001 『台湾的日本農業移民：以官営移民為中心』国史館

●中国語論文

張振岳 2007 「花東縦谷の客家二次移民与聚落形成：富里、玉里地区為例的探討」[花蓮学學術研討会
2007] 所収

張蓉峻 2008 「東部移墾的花蓮大家族：連碧榕家族」[呉翎君 2008] 所収

廖經庭 2007 「饒永昌与鳳林客家聚落的形成与発展」[花蓮学學術研討会 2007] 所収

【追記】本稿は平成22年度総合科学部創生研究プロジェクト・日本統治時代台湾東部における
徳島県入植者の履歴：徳島の地域文化と吉野村開拓史による成果の一部である。

表1 移民整理調査結果総括表

事 由	吉野	豊田	林田	合計
郷里又は管外に旅行し帰村農業に従事する見込なきもの	24	2	11	37
管内の村外に転居し帰村農業に従事する見込なきもの	13	7	13	33
本人死亡し其の縁故者手続き未済 見込なきもの	1			1
現住者にして農耕に従事せず永住の見込なきもの	27			27
地代金完納者にして現住せざるもの	2			2
地代金を完納したる現住者にして永住の見込なきもの	1			1
行衛不明又は居所調査未了のもの	1		4	5
現住者にして独立経営不能のもの 其他			3	3
合計	69	9	31	109

典拠：「移民整理ニ関スル件」（『総督府文書』冊号7295文号2・大正15年11月26日殖農第一八八五号として立案、昭和2年3
月2日総殖第三五四二号として決裁、画像番号000072950150183～0207）、H（0190）。

表2 吉野村移住整理に関する調査

(1) 旅行転出者にして帰村農業に従事する見込なきもの

氏名	旅行承認期間	旅行理由	旅行先	土地	家屋	摘要
徳田源次郎	11/7/7-11/11/7	家事整理	郷里	湖上次助	本島人	教回督促、13年1月29日に一端帰村、その後無断で退去、何等手続させず。帰村の見込みなし。
新田二一	12/1/16-12/4/15	病氣療養	郷里	本島人	本島人	市役所経由で教回督促、何等手続なし。現在京都伏見町に転居。帰村の見込みなし。
湯尾仁太郎	12/5/28-13/1/27	母の看病	郷里	作中	空屋	郷里村役場を経て教回帰村を督促。村内に大なる負債有り。帰村の見込みなし。
中田九一	12/8/9-12/6/24	妻病氣、右側座骨神経痛	郷里	水林辰平	空屋	14年3月24日に3箇月の延期額を提出、その後帰村せず。土地家屋売渡額と解除額を水林辰平に委託。帰村の見込みなし。
加良勘之助	12/8/28-12/11/27	妻病氣	郷里	池上勝	空屋	教回督促するも何等手続させず。土地を他に売渡。帰村の見込みなし。
藤村孝太郎	12/10/3-13/1/2	神経衰弱	広島県	田淵寛三太・三島茂三郎引受	山本友一	教回督促するも帰村せず。13年3月延期額出、期間が経過するも帰村せず。元来農業を好まず、雑貨商を営み失敗。故に引上げる。帰村の見込みなし。
神田房四郎	12/10/5-13/1/2	家事整理	郷里	非移民・山下幸助	非移民・山下幸助	村役場を経て教回督促するも12年8月20日6箇月の延期を願出たまま。帰村せず。見込みなし。
奥本健太郎	12/11/22-13/2/22	病氣	郷里	非移民・廣瀬右蔵	非移民・廣瀬右蔵	教回督促、帰村せず。多額の負債有り。土地家屋全て売渡。帰村の見込みなし。
須田平吉	13/5/21-13/9/20	家事整理	郷里	本島人小作	空屋	14年12月末日まで延期を願出たまま。帰村せず。親族が家屋を手入れ、掃除をしている。
平島善太郎	15/5/21-15/9/6	家事整理	郷里	石井伊平引受、本島人に小作させる	小作本島人	督促により14年3月22日まで6箇月間の延期を願出たまま帰村せず。見込みなし。
口俊太郎	15/8/25-15/10/30	妻病氣	花蓮港	本島人小作	小作本島人	保険勧誘業、子弟も稻米農業に従事する見込みなし。
松本仙太郎	14/8/1-15/7/21	精神異状	郷里	武田幸吉引受、本島人に小作させる	小作人を居住させる	16年7月30日までの延期を願出が、帰村の見込みなし。
黒木與四郎	11/4/11-11/8/10	家族病氣	郷里	非移民・小野徳太郎	非移民・小野徳太郎	帰村督促するも何等手続なし。帰村の見込みなし。
今田角太郎	無断	病氣、家中整理	郷里	非移民・草間由太郎	草間由太郎	8年8月無断帰郷。教回督促の結果13年4月11日までの延期を願出た帰村せず。見込みなし。
鈴木養春	無断	農業経営出来ず	郷里	高橋渡	高橋渡	本人は大正4年生まれ、母37歳は帰村農業を営む見込みなし。
温品芳助	無断	肺炎	郷里	非移民・井上孫平	井上孫平	13年8月家事整理の為帰郷、15年2月に一端帰村、説諭したが直ちに引上。
西崎甚五郎	無断	農業を好まず	神戸	西崎助太郎	本島人	農業を怠み、花蓮港に出稼、ついに転居し、帰村の見込みなし。
近藤稔	無断	大正元年生まれ、生活の途なし。	郷里	非移民・原口宏次	非移民・原口宏次	本人は内地小学校在学中。帰村農業に従事する見込みなし。
住本稔	無断	徴兵の為引上	大阪	瀧本三郎	瀧本三郎	退官後三年を経て帰村せず。
牧野シゲリ	無断	農業を好まず	東京	本島人	本島人	女医志望にて遊学中。吉野庄に居住するを望まず。
吉岡榮助	無断	農業を好まず	郷里	先山口(禮?)六	先山口(禮?)六	農業を好まず、土地家屋は売渡帰郷。帰村の見込みなし。
吉村和吉	無断	農業を好まず	郷里	宮崎平吉	宮崎平吉	母及び弟は下下に在住。土地家屋は売却あり。耕作できず、帰村の見込みなし。
村木周次郎	無断	負債の為	郷里	家族自作	家族居住	負債多額、やむなく引上げるが但し近く帰村するという。
白井高一郎	無断	精神異状	行衛不明	藤本元三郎・林和平	御藏	行衛不明、帰村の見込みなし。
前田廣善	無断	台北師範学校入学	台北	本島人	本島人	農業を好まず、師範学校入学、帰村の見込みなし。
高松左馬次	無断	農業を嫌忌	台東	湖上次助	空屋	土地は他人に売却。帰村の見込みなし。
杉本甚八	無断	巡査志願の為	花蓮港	非移民・山口	同左	農業を好まず、帰村の見込みなし。
遠藤眞吉	無断	往來し負債	花蓮港	本島人	本島人	農業を好まず、銚子踏切乗人となり、教回説諭するも帰村の見込みなし。
岡田英次郎	無断	農業を好まず	花蓮港	本島人	本島人	農業を好まず、専売局の職員となり、帰村の見込みなし。
大岩ハギエ	無断	夫を失い、農業を好まず	花蓮港	本島人	空屋	身体宜しからず、家を守り農業を営むことができず、帰村の見込みなし。
杉本唯一	無断	農業を好まず	花蓮港	本島人	本島人	投機心に富み、はじめに農業に従事出来ず、市場更員となる。帰村の見込みなし。
藤本助藏	無断	家屋倒壊	花蓮港	一甲実父、二甲湖上次助	同上	農業を好まず、家屋を建てて居住する見込みなし。
大塚廣一	無断	同上	鉄道線?未広村?	七反(判読不能) 二反(判読不能) 五反(判読不能) 其他(判読不能)	同上	農業を好まず、家屋を建てて居住する見込みなし。
大槻美隆	無断	家業に勤めず負債	花蓮港	本島人	本島人	郵便配達夫となる。教回説諭するも肯んせず。農業に従事する見込みなし。

食本正義	無断	向上	花運港	湯浅彦七、桑島彬太郎、水圓三代吉	古物商を営み農業を好まず、帰村の見込みなし。
竹川三和次	無断	同上	花運港	奥西綱次郎	負債を有し救済の途無し。農業を好まず、帰村の見込みなし。
森帯三	無断	同上	花運港	勝田勝馬	本人は死亡し、甥に家事整理し、帰村の見込み無し。
宮本佐吉	無断	負債整理の為巡查志願	研海	泉梅吉 他六名	農業を嫌忌するにあらず、負債整理の為巡查になり、帰村の見込みなし。
高岡常喜	無断		花運港	宮永重行	花運港電気会社に勤務、農業を営む見込みなし。

(2) 現住者にして農耕に従事せず永住の見込みなきもの

氏名	事由
網森次吉	無断にて花運港へ転居。妻は女髷結業。長男は師範学校に入学。その後離婚し本人は内拙へ帰還。妻の帰郷に農業に従事するとは考えられない。
天野直一	農業を嫌忌、山仕事に従事し、土地は大部分担保にいわれ、家政風紀共に業乱し、正業に服する見込みなし。
佐藤ソテ	家族は悉く退居し、本人も老齢にして農業を経営できない。土地は小作に出しており、所有権移転後に引上げようとしており、考えられる。
連藤小七助	男子三人を生むも農業に従事せず、土地は大部分負債となり、僅かに自作をしているにすぎず。将来は女子に婿を建てさせようと考えており、まじめな農業者とは認めがたい。
多田仁平	分戸移民であり、土地を耕作せず、林産物の払い下げやその下請けに従事する。農業経営の見込みなし。
北橋元吉	農業を好まず土地を全部他人に貸し渡しして自作せず。将来見込みなし。
高橋和平	本人は老齢であり農業に従事せず、他人に小作させている。養子には花運港市場にて野菜売りととなっている。所有権移転後は引上げること。見込みなし。
進藤進吉	兄弟三人とも瀬戸間に従事し、農業を営まない。五反広くらしいは苦力を雇って耕作するが、その他は本島人に小作させ、家庭にも本島人を居住させている。当分は農業経営の見込みなし。
井上武平	莫大なる負債を作り、整理困難。適当な時期を見計らって引上げるものと考えられる。
多田孫平	老母一人を残して引上げる。所有権移転後は直ちに売却し取り立てるものと考えられる。
吉沢ミサ子	性格は怠惰であり、衣食に頼るのではないが労働を好まず、多額の負債を抱え整理に容易に陥ったと考えられる。
吉田常一	夫死亡後に家庭に閉居あり、ついに財産分配を行った。安定は困難である。
神田ヤス	久しらく内地に引上げており、数回督促したが向等の手続をこなさず、土地は他人に耕作させ自分自身はミン稼続を行って生活をしている。
平尾健吉	多額の負債を抱え土地家屋を全て人手に渡す。元来農業を好まず、今なお飲食店を経営しようとする状態であり、見込みなし。
前田佐助	家族全部が引上げ本人のみ所有権移転を待っている。
堀島孝次郎	二男を残して職活業を営まず、本人らは備園し全く農業を経営せず。
田中甚三郎	僅かに自作するが大部分は他人の手に渡し、長男は自転車職工として他出し、真面目に農業に従事するとは考えられない。
山本代一	日雇い苦力を雇い僅少の自作を行おうが、大部分の土地は人手に渡り取り返す見込みがない。
宮島武(?)	三男の一人残して他は全部帰郷または転出する。帰村の見込みなし。
西小路実男	両親及び妻は家において若干の自作。本人は長男の師範学校学費の為に巡査となり、剣道教士となりとしており農業に従事するとは考えられず。
松本房市	家族が多く、労力が十分ではあるが多額の負債に苦しみ永久に踏み留まらざるに農業に従事することは出来ないだろうと考えられる。
原野龍雄	家庭負債が多額あり、本人の志願も軽微ではなく、真面目に農業に従事するものと考えられる。
松原初一	七男一女を養く負債または転業させ、相継ぎを決めていない。所有権移転後は退居するとは考えられる。
高森柳太郎	補欠として採用されたまま指定家庭に居住せず、吉野町前に菓子屋を営業し農業に従事する見込みなし。
西林建之助	大面積の土地を所有しその管理の為割当地及び指定家庭は他人に貸し与して転出。時期が至れば帰村の見込みあり。ただし移民取締上特別扱いをするのは他との関係上適当ではない。

(3) 地代金を完納者にして現住せざるもの

氏名	事由
田村郡一	病氣療養と称して妻の美家の北海道へ引上げ、しばらく旅行延期を願出て、所有権移転を待っている。帰村の見込みなし。
林田文平	肺病の為の転地療養と称して無断帰郷。帰村の見込みなし。

(4) 地代金を完納したる現住者にして永住の見込みなきもの

氏名	事由
後藤井治	子ども三人を中学校に入學させているが、卒業後に引上げると公言。

備考：表中の年号は明記しない場合は全て“大正”である。

典拠：「移民整理二開スル件」(『総務府文書』冊号7295文号2・大正15年11月28日殖農第一八八五号として立案、昭和2年3月2日総殖第三五四二号として決裁、画像番号000072950150183~0207)、1~P

附表 昭和初年官営移民氏名・本籍及び総督府文書対応表

凡例：冊号・文号は典拠となる台湾総督府公文類纂（いわゆる総督府文書、データベースの詳細は本表末尾の典拠及び本稿註8）の登録に準ずる。画像ファイル数は、その文書の頁数と対応していない。上記データベースでは附箋などは独立してファイル数を構成している為である。“未公開”は原資料は存在するが「破損」や「データファイル化作業中」によりデータベースに公開されていないことを表す。“未発見”はデータベース上に当該人物のデータが見当たらないことを意味する。そもそも存在しなかった、または破棄・散逸の可能性もある。

●官営移民

所在	事業開始年月	土地権利関係	氏名	本籍	冊号	文号	画像ファイル数	文 件 名 称	日 付		
花蓮港廳吉野村字宮前	M43 I2 M43	許可地 計可地 所有地 許可地 所有地 所有地 許可地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地	坂東忠平	徳島	6145	22	17	坂東忠平豫約開墾地成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)		
			鈴木義春	愛媛	2861	16	6	9鈴木義春官有原野豫約開墾地賣渡許可	1918-08-01 (大正 7 年)		
			安部多平	徳島	6156	6	6	安部多平豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)		
			土井伊三郎	同上	7301	14	19	安部多平豫約開墾成功地賣渡許可 土井伊三郎官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1925-06-01 (大正 14 年)		
			河野正太郎	千葉	2550	3	12	河野正太郎豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)		
			伊藤堅司	同上	6156	1	9	伊藤堅司官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)		
			同上	同上	2550	21	9	伊藤堅司官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)		
			同上	同上	4066	2	223	伊藤堅司官有原野豫約開墾成功地賣渡許可ノ件	1927-04-01 (昭和 2 年)		
			梶吉	徳島	6970	12	518	伊藤堅司官有原野豫約開墾成功地賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)		
			天羽鶴吉	同上	6156	5	9	梶吉豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)		
			同上	同上	6156	12	9	天羽鶴吉豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)		
			井止(上?) 武平	同上	6967	1	78	天羽鶴吉官有原野豫約開墾成功地賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)		
			網藤次吉	同上	未発見						
			遠藤貞吉	同上	2549	6	9	遠藤貞吉官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)		
			同上	同上	5691	72	7	遠藤貞吉官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)		
花蓮港廳吉野村字宮前	所有地 許可地 所有地 計可地 所有地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地	福島	福島	未発見							
		安定芳太郎	徳島	2550	17	8	安定芳太郎官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)			
		高橋文次郎	同上	1378	10	7	元看守高橋文次郎退職一時金證書下附ノ件	1908-06-04 (明治 41 年)			
		須戸善藏	同上	未発見							
		桑原春藏	同上	2549	1	78	桑原春藏官有原野豫約開墾成功地賣渡報告	1916-02-01 (大正 5 年)			
		同上	同上	6156	3	9	杉本鐵藏官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)			
		吉野重太郎	同上	6156	3	9	岸野重太郎豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)			
		西川隆太	同上	未発見							
		林和乎	同上	2549	9	9	林和乎官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)			
		角田幸吉	同上	未発見							
		坂東市太郎	同上	2550	12	9	坂東市太郎官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)			
		江崎卯八	北海道	6156	2	11	江崎卯八豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)			
		田村郡一	徳島	2550	2	9	田村郡一官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)			
		田野シヅ子	同上	未発見							
		花蓮港廳吉野村字宮前	所有地 計可地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地 計可地 所有地	天羽常雄	徳島	2549	17	14	天羽常雄官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)	
同上	同上			6967	1	78	天羽常雄官有原野豫約開墾成功地賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)			
西崎助太郎	新潟			6967	1	78	西崎助太郎官有原野豫約開墾成功地賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)			
草間常吉	同上			2550	16	8	草間常吉官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)			
同上	同上			5692	22	10	草間常吉官有原野豫約開墾成功地賣渡報告	1913-06-01 (大正 2 年)			
宮本仁之吉	徳島			2549	4	4	宮本仁之吉官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-01-01 (大正 5 年)			
新居賢夫	同上			未発見							
臣永一美	同上			6156	5	12	臣永一美豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)			
杉本福藏	同上			6156	15	9	杉本福藏豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)			
長井繁次郎	同上			2549	8	15	長井繁次郎官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)			

	許可地	坂東宮太郎	2550	20	9	坂東宮太郎官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
	許可地	佐藤數一	2860	6	6	矢野數一豫約買渡許可	1918-08-01 (大正 7 年)
	所有地	杉村政藏	未発見				
	許可地	杉浦彌平	2549				
	所有地	鳥羽久太郎	2549	11	9	後藤彌平官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
	許可地	太前藤一	6970	12	518	鳥羽久太郎官有森林原野豫約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	所有地	村田文平	2550	8	9	村田文平官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
	許可地	齋藤幸雄	5692	13	7	矢金利吉官有原野豫約買渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	所有地	矢金利吉	6156	8	9	矢金利吉豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)
	許可地	同上	6970	12	518	矢金利吉官有森林原野豫約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	許可地	杉本甚八	2550	5	9	杉本甚八官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
	許可地	武智理平	2550	9	9	武智理平官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
	許可地	同上	5691	64	7	武智理平官有原野豫約買渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	許可地	同上	6373	25	4	武智理平官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	許可地	土井甚藏	2550	19	9	土井甚藏官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
	所有地	同上	6970	12	518	土井甚藏官有森林原野豫約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	所有地	山平雪次郎	2549	16	7	山平雪次郎官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
	所有地	同上	6970	12	518	山平雪次郎官有森林原野豫約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	許可地	須戸常吉	未発見				
	所有地	先山待吉	未発見				
	所有地	進藤新吉	6156	14	9	進藤新吉豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)
M2	所有地	後藤新治	2442	5	14	瀧川佐代吉豫約開墾成功地賣渡許可	1916-03-01 (大正 5 年)
M43	許可地	宮本庄五郎	2550	14	9	宮本庄五郎官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
M44	許可地	西村榮太郎	2549	5	15	西村榮太郎官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
M43	許可地	住友良一	6156	7	9	住友良一豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)
M44	所有地	村田四郎一	6970	12	518	村田四郎一官有森林原野豫約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
M43	所有地	宮本作平	2550	22	9	宮本作平豫約開墾成功地賣渡許可	1916-02-01 (大正 5 年)
T3	許可地	濑橋正	6156	11	9	濑橋正官有原野豫約開墾成功地賣渡許可	1915-01-01 (大正 4 年)
	許可地	同上	6381	66	4	濑橋正官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	許可地	同上	6967	1	78	濑橋正官有森林原野豫約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
T5	所有地	中島常雄	6531	16	36	中島常雄外三六名官有地使用許可	1918-01-01 (大正 7 年)
M44	所有地	同上	6532	1	47	中島常雄外三六名官有地使用許可	1918-01-01 (大正 7 年)
	許可地	森本作一	5688	51	7	森本作一官有原野豫約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	許可地	同上	5691	73	7	森本作一官有原野豫約買渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	許可地	同上	6373	4	4	森本作一官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	許可地	同上	6970	12	518	森本作一官有森林原野豫約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	許可地	太田豊	5688	18	7	太田豊官有原野豫約買渡許可	1921-01-01 (大正 2 年)
	許可地	同上	6970	12	518	太田豊官有森林原野豫約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
M43	許可地	彌永大次郎	5688	64	7	彌永大次郎官有原野豫約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
M44	許可地	正木貞夫	未発見				
	許可地	森本元三郎	5688	29	7	森本元三郎官有原野豫約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	許可地	同上	5691	84	7	森本元三郎官有原野豫約買渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	許可地	同上	6373	15	4	森本元三郎官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	許可地	村上林之助	5688	42	7	村上林之助官有原野豫約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	許可地	同上	5691	68	7	村上林之助官有原野豫約買渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	許可地	正木幸吉	2732	4	3	正木幸吉豫約開墾成功地賣渡願許可ノ件	1917-07-01 (大正 6 年)

							7	正木幸吉官有原野像約賣渡許可		5688	33			1913-02-01 (大正 2 年)
							518	正木幸吉官有森林原野像約賣渡報告		6970	12			1921-01-01 (大正 10 年)
M43				徳島 福岡					未発見	5688	28			1913-02-01 (大正 2 年)
									未発見	6970	12			1921-01-01 (大正 10 年)
M44				秋田					5688	6970	12			1913-02-01 (大正 2 年)
									5688	5688	56			1913-02-01 (大正 2 年)
									5688	5692	9			1913-04-01 (大正 2 年)
									5688	5688	19			1913-02-01 (大正 2 年)
									5691	6970	69			1913-04-01 (大正 2 年)
									6373	2635	23			1916-01-01 (大正 5 年)
									6439	6439	38			1917-07-01 (大正 6 年)
									6970	6970	12			1921-01-01 (大正 10 年)
									2722	2722	4			1917-05-01 (大正 6 年)
									5688	5688	31			1913-02-01 (大正 2 年)
M45				福岡					2860	2860	5			1916-01-01 (大正 5 年)
									2860	2860	5			1918-08-01 (大正 7 年)
									6373	6373	16			1916-01-01 (大正 5 年)
									2735	2735	18			1917-09-01 (大正 6 年)
									5688	5688	53			1913-02-01 (大正 2 年)
									5691	6373	65			1913-04-01 (大正 2 年)
									未発見	6373	1			1916-01-01 (大正 5 年)
T4				徳島					6373	6373	22			1916-01-01 (大正 5 年)
M44				群馬					未発見	5688	35			1913-02-01 (大正 2 年)
									6970	6970	12			1921-01-01 (大正 10 年)
T5				山口					未発見					
									未発見					
T4				福岡					6381	6381	71			1916-01-01 (大正 5 年)
M44				徳島					5688	6970	32			1913-02-01 (大正 2 年)
T3				秋田					未発見	5688	12			1913-02-01 (大正 2 年)
M43				徳島					未発見					
M44				新島					未発見					
									5688	5688	25			1913-02-01 (大正 2 年)
									5691	6970	78			1913-04-01 (大正 2 年)
									6378	6378	32			1916-01-01 (大正 5 年)
M43				徳島					5688	4066	47			1913-02-01 (大正 2 年)
T4				福岡					11078	11078	2			1917-06-01 (昭和 2 年)
T3									未発見		19			1914-01-01 (大正 3 年)
M44				新島					未発見	5688	44			1913-02-01 (大正 2 年)
									未発見					
									未発見					
M45				広島					2732	2732	1			1917-07-01 (大正 6 年)
									5688	5688	39			1913-02-01 (大正 2 年)
									6970	6970	12			1921-01-01 (大正 10 年)
									5690	5690	35			1913-03-01 (大正 2 年)

						1	5692	7	吉岡榮助官有原野像約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
M44			同上		4	2050	20	吉岡榮助移住三關之少命倉下付	1912-05-01 (明治 45 年)	
T5			佐川滿平		69	5689	7	佐川滿平官有原野像約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)	
M44			同上		63	5691	7	佐川滿平官有原野像約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)	
			福岡		12	6970	518	原口種吉官有森林原野像約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)	
			徳島		35	5689	9	中島高吉官有原野像約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)	
			白井高一郎		36	5689	9	白井高一郎官有原野像約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)	
			中島辨吉			未發見				
			渡邊憲雄			未發見				
T3		所有地	福岡七字			未發見				
			重村與市		16	2721	9	重村與市薬劑開墾地成功賣渡願許可/件	1917-05-01 (大正 6 年)	
T6		許可地	宮城		43	3294	8	高城木薬劑開墾地成功賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)	
T3			川口		12	6970	518	底居兼松官有森林原野像約賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)	
T5			徳島		23	5862	8	井谷虎太郎官有原野像約賣渡許可	1921-01-01 (大正 10 年)	
T2			山口		12	6818	11	井谷虎太郎官有原野像約賣渡許可	1914-01-01 (大正 3 年)	
M44			香川		20	2735	4	黒元國一薬劑開墾地成功賣渡願許可/件	1920-01-01 (大正 9 年)	
			龍本本藏		41	5688	7	龍本本藏官有原野像約賣渡許可	1917-09-01 (大正 6 年)	
			同上		67	5691	7	龍本本藏官有原野像約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)	
			同上		67	5691	7	龍本本藏官有原野像約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)	
			片山留次郎		12	518	龍本本藏官有森林原野像約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)		
			同上		40	5688	7	片山留次郎官有原野像約賣渡許可	1921-01-01 (大正 10 年)	
			愛媛		23	6372	4	片山留次郎官有原野像約賣渡願/件許可	1913-02-01 (大正 2 年)	
T2			群馬		15	未發見	3	大谷大吉薬劑開墾地成功賣渡願許可/件	1916-01-01 (大正 5 年)	
			同上		12	6970	518	大谷大吉官有森林原野像約賣渡報告	1917-10-01 (大正 6 年)	
M44			徳島			未發見				
T5		所有地	徳島			未發見				
T4		許可地	香川			未發見				
			北條ハル			未發見				
			熊本			未發見				
			熊本			未發見				
			徳島		4	6441	8	林富外五官有原野像選許可地一部返却許可	1917-10-01 (大正 6 年)	
T6		許可地	徳島			未發見				
T4			熊本		69	6381	4	備後才藏官有原野像約賣渡願/件許可	1916-01-01 (大正 5 年)	
			熊本		67	6381	4	林田群蔵官有原野像約賣渡願/件許可	1916-01-01 (大正 5 年)	
M44		許可地	徳島			未發見				
T4			熊本		7	6441	9	渡邊隆太外五官有原野像選願許可	1917-11-01 (大正 6 年)	
			熊本		14	6971	未公開	渡邊辰平官有森林原野像約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)	
T11			群馬		44	3294	8	岡床次郎薬劑開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)	
T9			徳島			未發見				
M44			徳島		24	5688	7	今田角太郎官有原野像約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)	
			熊本		1	6967	78	今田角太郎官有森林原野像約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)	
T4			熊本		68	6381	4	大岩ハギ工官有原野像約賣渡願/件許可	1916-01-01 (大正 5 年)	
M43			徳島		14	6971	未公開	前田弘喜官有森林原野像約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)	
M45		所有地	熊本		25	2763	34	西崎基五郎官有原野像選願許可/件	1916-11-01 (大正 5 年)	
			熊本		11	2738	4	池上兩藏後約開墾地成功賣渡願許可/件	1917-10-01 (大正 6 年)	
			同上		1	2992	532	(池上兩藏外一名)官有原野像約賣渡願許可/件	1919-03-01 (大正 8 年)	
			同上		2	5689	7	池上兩藏官有原野像約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)	
			香川		66	6967	78	池上兩藏官有森林原野像約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)	
			守谷節			5688	7	守谷節官有原野像約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)	

花蓮港廳吉野村字清水

									7 守谷前官有原野豫約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
				5691					4 守谷前官有原野豫約賣渡許可ノ件	1917-09-01 (大正 6 年)
				2735					78 守谷前官有森林原野豫約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
許可地	安藤源治			6987					15 安藤源治豫約開墾地成功賣渡願許可ノ件	1917-08-01 (大正 6 年)
	同上			2727					14 安藤源治豫約開墾地成功賣渡願許可ノ件	1917-08-01 (大正 6 年)
	同上			3294					9 安藤源治豫約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	渡邊虎吉			未発見						
	大前幾太郎			未発見						
	三野正夫		徳島	未発見						
	藤末甚藏		香川	未発見						
	同上		熊本	5689					10 藤末甚藏官有原野豫約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
	同上		熊本	5691					7 藤末甚藏官有原野豫約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
	瀨尾與右衛門		広島	未発見						
	宇都宮長松		愛媛	未発見						
	山口次郎		佐賀	1896					5 台灣公學校教諭山口次郎作賣買金及免本官ノ件	1911-12-01 (明治 44 年)
	同上			1887					35 山口次郎任府屬ノ件	1911-06-01 (明治 44 年)
	同上			2312					7 山口次郎官有原野豫約賣渡許可	1914-04-01 (大正 3 年)
	同上			5689					7 山口次郎官有原野豫約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上			5691					7 山口次郎官有原野豫約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
	同上			9407					6 教諭山口次郎作依願免官(元臺中縣)	1901-07-01 (明治 34 年)
	同上			9568					7 山口次郎作打狗公學校雇二採用ノ件(元臺南縣)	1901-08-01 (明治 34 年)
所有地	鈴川孫雄		山口	2727					237 鈴川孫雄豫約開墾地成功賣渡願許可ノ件	1917-08-01 (大正 6 年)
許可地	兼本三平			未発見						
	神田亨文			未発見						
T3	三島茂三郎		香川	5689					7 三島茂三郎官有原野豫約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
M45	山本彌吾		広島	未発見						
	藤村彦太郎		香川	未発見						
	田淵善三太			5689					10 田淵善三太官有原野豫約賣渡許可及承継届	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上			5691					9 田淵善三太官有原野豫約賣渡許可及承継届	1913-11-01 (大正 2 年)
	同上			6373					4 田淵善三太官有原野豫約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	細谷正義			未発見						
	藤下シヅヲ			未発見						
	湯浅竹治			未発見						
	中村芳次郎		山口	785					2 通信書記中村芳次郎ニ鳳山郵便電信局長心得ヲ命シ外一名同職長心得ヲ免ス	
所有地	松本房一		広島	5689					7 松本房一官有原野豫約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上			5691					6 松本房一官有原野豫約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
許可地	船津慶章		佐賀	未発見						
所有地	同上		広島	5689					7 藤本為次郎官有原野豫約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上			5691					7 藤本為次郎官有原野豫約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	同上			6970					518 藤本為次郎官有森林原野豫約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	同上			6971					未公開 藤本為次郎官有森林原野豫約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	同上			5688					7 村木周次郎官有原野豫約賣渡願許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上			6373					4 村木周次郎官有原野豫約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
許可地	井成伊之吉		徳島	2722					15 井成伊之吉豫約開墾地成功賣渡願許可ノ件	1917-05-01 (大正 6 年)
	同上			2727					11 井成伊之吉豫約開墾地成功賣渡願許可ノ件	1917-05-01 (大正 6 年)
	同上			6970					518 井成伊之吉官有森林原野豫約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	大井英吉			未発見						
所有地	平尾織草		香川	未発見						
許可地	三上利光			5687					7 三上利光官有原野豫約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上		熊本	未発見						
	村岡進一		山口	未発見						

T2	嘉屋米吉	未発見	74	7	油村傳藏官有原野後約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
	油村傳	5689	74	7	油村傳藏官有原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	同上	6967	1	78	油村傳藏官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	同上	6971	14	未公開	油村傳藏官有森林原野後約賣渡報告	1918-09-01 (大正 7 年)
M45	中村佐一郎	2868	5	6	中村佐一郎官有地後約賣渡願許可	
	奥田雄次郎	未発見				
	合田豊	未発見				
	宮井浪次郎	5689	29	7	宮井浪次郎官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上	5691	18	7	宮井浪次郎官有原野後約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	同上	6967	1	78		
	同上	5691	19	7	鈴江百合藏官有原野後約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	同上	6970	12	518	鈴江百合藏官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	白井頼三郎	2735	17	4	白井頼三郎官有地後約賣渡願許可ノ件	1917-10-01 (大正 6 年)
	同上	5689	56	7	白井頼三郎官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上	6925	10	38	白井頼三郎外一者官有原野後約賣渡願許可	1920-01-01 (大正 9 年)
	花岡勝太郎	未発見				
	古賀善太郎	2731	16	80	古賀善太郎官有地後約賣渡願許可ノ件	1917-07-01 (大正 6 年)
	同上	5691	21	7	古賀善太郎官有原野後約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	吉田常一	5689	45	7	吉田常一官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上	5689	75	8	吉田常一官有原野後約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
	同上	6373	20	4	吉田常一官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	新田二	2856	6	7	新田二一役約賣渡許可	1918-06-01 (大正 7 年)
	同上	2856	7	3	新田二一役約賣渡許可	1918-06-01 (大正 7 年)
	松尾金吾	2735	22	4	松尾金吾官有地後約賣渡願許可ノ件	1917-09-01 (大正 6 年)
	同上	5689	66	7	松尾金吾官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	松尾竹一	2735	19	4	松尾竹一役約開墾地成功賣渡願許可ノ件	1917-09-01 (大正 6 年)
	同上	5689	28	7	松尾竹一官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上	5691	22	7	松尾竹一官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	藤行正治	未発見				
	堀上熊吉	5688	73	7	堀上熊吉官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上	6439	39	未公開		
	同上	6970	12	518	堀上熊吉官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	南里徳太郎	未発見				
	石田一郎	2860	9	6	石田一郎役約賣渡願許可	1918-08-01 (大正 7 年)
	同上	2860	10	7	石田一郎役約賣渡願許可	1918-08-01 (大正 7 年)
	納高長右衛門	未発見				
	山崎スズ	未発見				
	下川芳太郎	2860	11	6	下川芳太郎役約賣渡願許可	1918-08-01 (大正 7 年)
	村山敏吉	未発見				
	平岡春吉	5689	9	7	平岡春吉官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上	6378	35	4	平岡春吉官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	森本清次郎	5689	20	7	森本清次郎官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上	5691	28	7	森本清次郎官有原野後約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	前田キク	未発見				
	味村初太郎	5688	74	7	味村初太郎官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上	6378	31	4	味村初太郎官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
T4	同上	6970	12	518	味村初太郎官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	大槻美峰	6967	1	78	大槻美峰官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
M45	上野虎一	5689	17	7	上野虎一官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
	同上	5691	30	7	上野虎一官有原野後約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
	宮田力松	2735	16	4	宮田力松役約開墾地成功賣渡願許可ノ件	1917-09-01 (大正 6 年)

							5689	13	7	宮田力松	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			未発見				未発見		7	宮田力松	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			未発見				未発見		7	倉本正義	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5689				5689	25	7	倉本正義	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691				5691	52	7	倉本正義	宮有原野後約買渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			6967				6967	1	78	倉本正義	宮有原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			6971				6971	14	未公開	倉本正義	宮有原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
T8			未発見				未発見	5	5	中村佐雄	宮有原野後約買渡許可	1913-10-01 (大正 2 年)
T2			6373		山口		6373	7	4	中村佐雄	宮有原野後約買渡許可	1916-01-01 (大正 5 年)
M45			5688		佐賀		5688	68	7	金丸光太郎	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			未発見		広島		未発見					
			未発見		広島		未発見					
			未発見				未発見					
T8			5689				5689	4	7	山本代一	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
M45			5691				5691	34	7	山本代一	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			未発見		佐賀		未発見	58	7	山口駒次郎	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5688				5688	58	7	山口駒次郎	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5689		広島		5689	58	7	古田喜一	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			6970				6970	12	518	古田喜一	宮有原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			5689		香川		5689	14	7	須川和吉	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5688		広島		5688	4	7	平岩傳次	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			6967				6967	1	78	平岩傳次	宮有原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			5688		香川		5688	62	7	堀上與人	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			6373				6373	9	4	堀上與人	宮有原野後約買渡許可	1916-01-01 (大正 5 年)
			未発見				未発見					
			5689		山口		5689	39	7	西村常藏	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691				5691	36	7	西村常藏	宮有原野後約買渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			6967				6967	1	78	西村常藏	宮有原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			未発見				未発見					
T2			5695		広島		5695	4	7	國岡澤太郎	宮有原野後約買渡許可	1913-10-01 (大正 2 年)
			6971				6971	14	未公開	國岡澤太郎	宮有原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
M45			5689		熊本		5689	59	7	高橋藤藏	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691				5691	38	7	高橋藤藏	宮有原野後約買渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			未発見				未発見					
			5688		福岡		5688	70	7	木下作太郎	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691				5691	39	7	木下作太郎	宮有原野後約買渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			2738		熊本		2738	10	4	宮本徳太郎	宮有原野後約買渡許可	1917-10-01 (大正 6 年)
			5688				5688	2	7	宮本徳太郎	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691				5691	40	7	宮本徳太郎	宮有原野後約買渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			6970				6970	12	518	宮本徳太郎	宮有原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			2727				2727	4	14	池上芳太郎	宮有原野後約買渡報告	1917-05-01 (大正 6 年)
			2727				2727	6	11	池上芳太郎	宮有原野後約買渡報告	1917-05-01 (大正 6 年)
			未発見		広島		未発見					
			未発見				未発見					
			6971		熊本		6971	14	未公開	藤村又藏	宮有原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			5689		佐賀		5689	12	7	冬野源太郎	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691				5691	42	7	冬野源太郎	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			2050				2050	5	19	冬野源太郎	宮有原野後約買渡報告	1912-06-01 (明治 45 年)
			6967		香川		6967	1	78	松岡梅太郎	宮有原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			5689		佐賀		5689	55	7	高塚治太郎	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5688				5688	65	7	石田春吉	宮有原野後約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)

							5691	43	7	石田春吉官有原野後約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			6967	1	同上		未発見		78	石田春吉官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			未発見		愛媛						
			未発見		山口						
			5689	48	高林重一		未発見		7	長井濱一官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691	44	長井濱一		未発見		7	長井濱一官有原野後約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
T4			未発見		福岡						
M45			5689	47	森夏藏		未発見		7	森夏藏官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691	45	同上		未発見		7	森夏藏官有原野後約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			6970	12	同上		未発見		518	森夏藏官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			2721	15	西岡春藏		未発見		15	西岡春藏後約開墾地成功賣渡報告	1917-05-01 (大正 6 年)
			2727	10	同上		未発見		11	西岡春藏後約開墾地成功賣渡許可/件	1917-05-01 (大正 6 年)
			6373	12	同上		未発見		4	西岡春藏官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
			未発見		福岡						
			未発見		福岡						
			5689	24	藤原政吉官有原野後約賣渡許可		未発見		7	藤原政吉官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691	48	同上		未発見		7	藤原政吉官有原野後約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			2853	12	桑島杉太郎		未発見		6	桑島杉太郎後約開墾地成功賣渡願許可	1918-05-01 (大正 7 年)
			6814	17	同上		未発見		13	桑島杉太郎後約開墾地方官所屬地貸下許可	1920-01-01 (大正 9 年)
			5688	7	長守太郎一		未発見		7	長守太郎一官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691	49	同上		未発見		7	長守太郎一官有原野後約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			6967	1	同上		未発見		78	長守太郎一官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			未発見		福岡						
			5689	41	梅津光次郎官有原野後約賣渡許可		未発見		7	梅津光次郎官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691	50	同上		未発見		7	梅津光次郎官有原野後約賣渡許可	1913-03-01 (大正 2 年)
			6825	10	同上		未発見		38	梅津光次郎外一名官有原野後約賣渡願許可	1920-01-01 (大正 9 年)
T4			6967	1	同上		未発見		78	梅津光次郎官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			6381	70	西小路實男		未発見		4	西小路實男官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
			3294	46	西岡伊三郎		未発見		12	西岡伊三郎後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
			7208	6	同上		未発見		13	花津渡藤吉野村西岡伊三郎後約開墾地方官所屬地貸下許可/件	1924-04-01 (大正 13 年)
M45			5689	54	鈴木重太郎		未発見		7	鈴木重太郎官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691	59	同上		未発見		4	鈴木重太郎官有原野後約賣渡願ノ件許可	1913-04-01 (大正 2 年)
			6373	18	同上		未発見		4	鈴木重太郎官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
			6971	14	同上		未発見		未公開	鈴木重太郎官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			5688	14	高塚芳太郎		未発見		7	高塚芳太郎官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			5691	58	同上		未発見		7	高塚芳太郎官有原野後約賣渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
			6970	12	同上		未発見		518	高塚芳太郎官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			2722	15	福水朝一		未発見		15	福水朝一後約開墾地成功賣渡願許可/件	1917-05-01 (大正 6 年)
			2722	3	同上		未発見		12	福水朝一後約開墾地成功賣渡願許可/件	1917-05-01 (大正 6 年)
			6378	34	同上		未発見		4	福水朝一官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
			5689	22	小前勲太郎		未発見		7	小前勲太郎官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			6967	1	同上		未発見		78	小前勲太郎官有森林原野後約賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			5689	11	藤枝五郎作		未発見		7	藤枝五郎作官有原野後約賣渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
			6373	3	同上		未発見		4	藤枝五郎作官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
M44			未発見		山形						
M45			未発見		福岡						
			未発見		香川						
			未発見		山口						
T4			6381	64	石橋政吉官有原野後約賣渡願ノ件許可		未発見		4	石橋政吉官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
			6381	65	同上		未発見		4	高江三五郎官有原野後約賣渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
M45			2721	13	神田房四郎後約開墾地成功賣渡願許可/件		未発見		15	神田房四郎後約開墾地成功賣渡願許可/件	1917-05-01 (大正 6 年)

					2727	7	11	神田房四郎	豫約開墾地成功買渡願許可ノ件	1917-05-01 (大正 6 年)	
		沖上	未発見					7	未岡三代吉	官有原野豫約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
		沖上	未発見					16	7野口重二	官有原野豫約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
		沖上	未発見					18	7野口重三	官有原野豫約買渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
T4		沖上	未発見					53	4田中基三郎	官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
M45		沖上	未発見					63	7牛角留松	官有原野豫約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
		沖上	未発見					51	7牛角留松	官有原野豫約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
		沖上	未発見					54	7野村伊三郎	官有原野豫約買渡許可	1913-02-01 (大正 2 年)
		沖上	未発見					54	7野村伊三郎	官有原野豫約買渡許可	1913-04-01 (大正 2 年)
		沖上	未発見					37	7石橋喜市	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					37	7石橋喜市	豫約開墾地成功買渡報告	1919-07-01 (大正 8 年)
		沖上	未発見					467	(石橋千代吉外五名)	官有原野豫約買渡願許可ノ件	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					36	7石橋千代吉	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					49	8石橋千代吉	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					48	8井上喜多八	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T5		沖上	未発見					48	8井上喜多八	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					1	915原庄吉	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					35	7原庄吉	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					35	7原庄吉	豫約開墾地成功買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
		沖上	未発見					78	原庄吉	官有森林原野豫約買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T4		沖上	未発見					33	7篠田源次郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					34	8徳田源次郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					34	8徳田源次郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					1	915重松豊吉	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					1	915大武藤吾	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					1	915大武藤吾	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					31	7大武藤吾	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					1	915緒方又四郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					1	915緒方又四郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					32	7緒方又四郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					32	7緒方又四郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					4442	21緒方又四郎外四名	雇二採用ノ件	明治 36 年
		沖上	未発見					31	9兵備者	巡查緒方又四郎豫約開墾地成功買渡報告	1904-05-01 (明治 37 年)
T5		沖上	未発見					31	9兵備者	巡查緒方又四郎豫約開墾地成功買渡報告	1904-05-01 (明治 37 年)
T4		沖上	未発見					1	915加良勘之助	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					1	915加良勘之助	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					29	7加良勘之助	官有森林原野豫約買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					12	518加良勘之助	官有森林原野豫約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
T5		沖上	未発見					1	915片淵近五郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
T4		沖上	未発見					1	915片淵近五郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見								
T5		沖上	未発見					1	915吉開喜次郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					28	7吉開喜次郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T4		沖上	未発見					25	7田上喜七	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					26	8田上喜七	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					1	915臺本徳七	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					24	7臺本徳七	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見								
T6		沖上	未発見								
T7		沖上	未発見					1	915常任金七	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
T4		沖上	未発見					1	915鶴木茂太郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
T4		沖上	未発見					1	915鶴木茂太郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
		沖上	未発見					20	7鶴木茂太郎	豫約開墾地成功買渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)

花蓮港廳吉野村字草分

T8							3285	1	915	上田伊助	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
T4	所有地	山口	未發見	新潟	同上	浮須榮三吉	3294	21	7	上田伊助	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	許可地		未發見	福岡	野田吉太郎	野田吉太郎	3285	1	915	野田吉太郎	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
			未發見		黒田清	黒田清	未發見					
			3285		同上	黒田清	3294	1	915	黒田清	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
			3285		同上	黒田勇一	3285	1	915	黒田勇一	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
			3294		同上	黒田勇一	3294	19	7	黒田勇一	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
T7			6967		同上	黒田勇一	6967	1	78	黒田勇一	宜有森林原野復新賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
T4	所有地	香川	未發見	香川	山本義平	山本義平	3294	17	8	山本義平	綿約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	許可地		3285		山下米松	山下米松	3285	1	915	山下米松	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
T8	所有地	香川	未發見	香川	山下武一	山下武一	未發見					
T9	許可地		未發見		山崎節子	山崎節子	未發見					
T4	所有地	佐賀	未發見	佐賀	淵上次助	淵上次助	3294	14	8	淵上次助	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T9	許可地		未發見		藤木助藏	藤木助藏	未發見					
T4	所有地	佐賀	3285		淵野底一	淵野底一	3285	1	915	淵野底一	綿約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
T5	許可地		3294		藤井良一	藤井良一	3294	12	7	藤井良一	綿約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
			3294		同上	藤井良一	3294	13	11	藤井良一	綿約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
			3294		古津勝太郎	古津勝太郎	3294	15	7	古津勝太郎	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	許可地		3294		同上	古津勝太郎	3294	16	7	古津勝太郎	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T4		山口	未發見	山口	小林忠治	小林忠治	6967	1	78	古津勝太郎	宜有森林原野復新賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
			未發見		井本善三郎	井本善三郎	未發見					
	所有地		3285		荒井源次郎	荒井源次郎	3285	1	915	荒井源次郎	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
			3294		同上	荒井源次郎	3294	6	7	荒井源次郎	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T6	許可地		未發見		相浦新市	相浦新市	未發見					
T4			2755		佐藤善太郎	佐藤善太郎	2755	53	4	佐藤善太郎	岩崎長次退償	1917-05-01 (大正 6 年)
			3294		宮永重行	宮永重行	3294	3	8	宮永重行	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
			3294		同上	宮永重行	3294	4	8	宮永重行	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
			6441		同上	同上	6441	1	23	江新晶外	三條約開墾地成功賣渡許可指合書訂正ノ件	1918-01-01 (大正 7 年)
			3285		宮崎權七	宮崎權七	3285	1	915	宮崎權七	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
			3294		同上	同上	3294	5	7	宮崎權七	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	所有地		6439		同上	同上	6439	42	未公開	同上		
	許可地		未發見		宮崎三五郎	宮崎三五郎	未發見		915	宮崎三五郎	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
T7			未發見		白石エキ	白石エキ	未發見					
T4			2993		白石清	白石清	2993	1	467	[白石清] 宜有原野復新賣渡許可ノ件		1919-08-01 (大正 8 年)
T5			3294		杉村勝平	杉村勝平	3294	1	8	杉村勝平	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
			3285		勝田勝馬	勝田勝馬	3285	1	915	勝田勝馬	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T6			3294		同上	同上	3294	2	7	勝田勝馬	伊勢約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T9	所有地		未發見		杉村重次	杉村重次	未發見					
			11429		高岡末吉	高岡末吉	11429	1-2	34	高岡末吉	所有地賣渡許可報告十六件一括 (花蓮港廳花蓮郡吉野庄)	1939-01-01 (昭和 14 年)
			10268		佐藤勝	佐藤勝	10268	111	6	佐藤勝	任臺灣總督府醫院書記、俸給、勤務	1941-03-01 (昭和 16 年)
			10341		同上	同上	10341	132	4	佐藤勝	勤務	1941-12-01 (昭和 16 年)
	許可地		未發見		細谷平吉	細谷平吉	未發見					
			未發見		葛松左馬次	葛松左馬次	未發見					
			未發見		森保	森保	未發見					

T3							3285	1	915	田原留吉	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上	福岡	3288	18	7	田原留吉	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
T6			6377	30	8	田原留吉	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	高橋近三郎	群馬	3288	16	7	高橋近三郎	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	3288	17	16	高橋近三郎	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
T3			未発見			高橋文内						
	常任職吉	福岡	3285	1	915	常任職吉	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	3288	14	7	常任職吉	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	6377	45	8	常任職吉	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	常任運吉	同上	2992	1	532	常任運吉	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1919-03-01 (大正 8 年)				
	同上	同上	6376	8	8	常任運吉	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	長野實三郎	佐賀	3285	1	915	長野實三郎	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	3288	13	3	長野實三郎	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	6376	39	8	長野實三郎	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	中野正七	徳島	3288	12	7	中野正七	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	中野常雄	同上	未発見									
T2			2992	1	532	中川麟吉	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1919-03-01 (大正 8 年)				
	同上	福岡	3288	11	7	中川麟吉	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	6377	32	8	中川麟吉	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	同上	同上	6380	14	4	中川麟吉	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
T3			3288	10	7	中山又次郎	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	6376	24	8	中山又次郎	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	同上	同上	6380	20	4	中山又次郎	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	同上	同上	6547	11	8	臺中廳渡川郡提出		1913-06-01 (大正 2 年)				
T2			3285	1	915	中本霞	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	広島	3288	9	10	中本霞	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	村田政行	熊本	未発見									
	村澤勇	山口	3288	7	7	村澤勇	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	6378	22	8	福村貞吉	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	同上	同上	6380	18	4	村澤勇	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
T5			10098	169		村田守	村田守 賞金専門委員 賞金専門委員 囃託ス	1939-08-01 (昭和 14 年)				
	村田守 (守密、守審?)	熊本	10107	A16	46	村田守	第一回 舊藩市計畫 花瀬地地方委員 臨時委員 任命ス	1940-10-01 (昭和 15 年)				
	同上	同上	11431	21	7	村田守	密外一名 官有森林 賞金返戻之件 (花瀬港騒四ノ四)	1942-01-01 (昭和 17 年)				
T2			3285	1	915	福村耕太	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	岩手	3288	6	7	福村耕太	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
T3			未発見			久保田慶						
T2			3285	1	915	山城龜次郎	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	北海道	3288	1	915	安武辰次郎	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	福岡	3288	5	7	安武辰次郎	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	6376	35	8	安武辰次郎	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	同上	広島	3288	4	7	松岡政十	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	6377	22	8	松岡政十	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	同上	同上	6381	17	4	松岡政十	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
T3			3285	1	915	瀧生勝次	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	福岡	3288	3	7	瀧生勝次	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	6377	19	8	瀧生勝次	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
	同上	同上	6380	22	4	瀧生勝次	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1916-01-01 (大正 5 年)				
T5			3001	7	915	前平良作	官有原野豫約開墾地成功實地報告	1919-05-01 (大正 8 年)				
	同上	長崎	3285	1	915	前平良作	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				
	同上	同上	3288	2	7	福田鶴三	豫約開墾地成功實地報告	1922-02-01 (大正 11 年)				

	同上			6377	33	11	福田惣三官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			6380	25	4	福田惣三官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
T3	船越興吉	福岡		3288	40	7	船越興吉豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6377	13	8	船越興吉官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			6380	21	4	船越興吉官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			3288	41	7	寺山三七豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6377	23	8	寺山三七官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			6380	24	4	寺山三七官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			3285	1	915	寺山作七豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
	同上			3288	42	7	寺山作七豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6376	10	8	寺山作七官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	寺山ヲツモ			未発見				
	安部七兵衛			3285	1	915	安部七兵衛豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			3288	38	7	安部七兵衛豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6376	34	8	安部七兵衛官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			6380	30	4	安部七兵衛官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
T2	淺沼八百太	東京		3285	1	915	淺沼八百太豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6378	4	8	淺沼八百太官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
T7	淺田久吉	福岡		3288	36	15	淺田久吉豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			3288	37	7	淺田久吉豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
T3	佐藤喜平	徳島		3285	1	915	佐藤喜平豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
	同上			3288	31	7	佐藤喜平豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6377	21	11	佐藤喜平官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
T12	長森田吉三	鹿児島		未発見				
T3	佐子山麿太郎	福岡		2992	1	532	【佐子山麿太郎外一名】官有原野豫約買渡願許可ノ件	1919-03-01 (大正 8 年)
	同上			3285	1	915	佐子山麿太郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6377	34	7	佐子山麿太郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6377	31	8	佐子山麿太郎官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
T7	廣藤留五郎	香川		未発見				
T2	菊池藤一郎	東京		3288	35	12	菊池藤一郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
T3	三角儀平	福岡		3288	33	7	三角儀平豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6376	7	8	三角儀平官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			6380	27	4	三角儀平官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			6376	33	8	水津藤一官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上	山口		6380	28	4	水津藤一官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
T2	平本利吉	広島		3288	30	7	平本利吉豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6376	28	8	平本利吉官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			6380	39	4	平本利吉官有原野豫約買渡願ノ件許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	同上			2991	1	523	【平尾孫太郎】官有原野豫約買渡願許可ノ件	1919-07-01 (大正 8 年)
	同上	群馬		3285	1	915	平尾孫太郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6376	17	8	平尾孫太郎官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
	廣川義雄	山梨		未発見				
	關正	熊本		9393	78	3	關正物品會計官更任命 (元臺中縣)	1897-07-01 (明治 30 年)
	同上			9394	6	4	關正法院三出向 (元臺中縣)	1897-07-01 (明治 30 年)
	同上			235	49	4	法院書記關正身歿	1897-11-16 (明治 30 年)
T3	末次良吉	福岡		3285	1	915	末次良吉官有原野豫約開墾地成功買渡報告	1922-04-01 (大正 11 年)
	同上			6377	2	8	末次良吉官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)
T11	森重田五郎	山口		未発見				
T3	末岡熊吉	福岡		3288	25	7	末岡熊吉豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
	同上			6376	26	8	末岡熊吉官有原野豫約買渡許可地成功延期願許可	1916-01-01 (大正 5 年)

T2					同左	同左	同左	6380	41	4	未田鹿吉官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					杉原菊次郎	新鴻	同左	6380	38	4	杉原菊次郎官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					菅伊之吉	熊本	同上	3285	1	915	菅伊之吉豫約開墾地成功賣渡報告	1922-02-01 (大正11年)
					同上		同上	3288	27	7	菅伊之吉豫約開墾地成功賣渡報告	1922-02-01 (大正11年)
					同上		同上	6376	6	8	菅伊之吉官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					同上		同上	6380	47	4	菅伊之吉官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					池内房太郎	徳島	同上	未発見				
T7					井上敦雄	鹿児島	同上	3281	16	7	井上敦雄豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	3281	18	7	井上敦雄豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
T11					久米田茂	熊本	同上	未発見				
T2					西内照次	高知	同上	3281				
					西津政次	福岡	同上	3285	15	7	西津政次豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6377	20	8	西津政次官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					同上		同上	6381	18	4	西津政次官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
T3					西村壽永	高知	同上	未発見				
T2					西村穂松	山口	同上	3281	12	7	西村穂松豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	3285	1	915	西村穂松豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6381	21	4	西村穂松官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					西村彌久七	高知	同上	3281	14	7	西村彌久七豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	3285	1	915	西村彌久七豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6368	19	4	西村彌久七官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
T3					本田太市	福井	同上	3281	11	7	本田太市豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6374	1	4	本田太市官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
T2					伊土勝幸	高知	同上	未発見				
T3					東滝林保	山形	同上	3281	10	7	東滝林保豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	3285	1	915	東滝林保豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6374	2	4	東滝林保官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
T2					徳永榮次郎		同上	3281	9	7	徳永榮次郎豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	3285	1	915	徳永榮次郎豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6378	20	8	徳永榮次郎官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					同上		同上	3281	8	7	沖永清太郎豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6376	27	8	沖永清太郎官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					同上		同上	6381	25	4	沖永清太郎官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
T3					沖本久松	広島	同上	3279	2	7	沖本久松豫約開墾地成功賣渡報告	1921-12-01 (大正10年)
					同上		同上	3285	1	915	沖本久松豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6377	25	8	沖本久松官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					同上		同上	6381	26	4	沖本久松官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
T2					沖清次郎		同上	3279	1	7	沖清次郎豫約開墾地成功賣渡報告	1921-12-01 (大正10年)
					同上		同上	3285	1	915	沖清次郎豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6377	9	8	沖清次郎官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					同上		同上	6381	24	4	沖清次郎官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					岡崎長吉	熊本	同上	3281	7	7	岡崎長吉豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	3285	1	915	岡崎長吉豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6368	20	4	岡崎長吉官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					和田榮	広島	同上	6380	12	4	和田榮官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					渡邊朋之助		同上	3281	20	7	渡邊朋之助豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	3285	1	915	渡邊朋之助豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正11年)
					同上		同上	6377	39	8	渡邊朋之助官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)
					同上		同上	6381	27	4	渡邊朋之助官有原野豫約買賣願/作許可	1916-01-01 (大正5年)

花蓮港藤野田村字森本

							7	7	川中能熊	川中能熊		3282										1922-01-01 (大正 11 年)
							12	12	同上	同上		6377										1916-01-01 (大正 5 年)
							29	29	同上	同上		6381										1916-01-01 (大正 5 年)
								1	桶迫辰雄	桶迫辰雄		3285										1922-01-01 (大正 11 年)
								3	同上	同上		6374										1916-01-01 (大正 5 年)
									米田俊雄	香川		未発見										
									瀧茂	香川		未発見										
T3								9	竹内九之助	広島		3282										1922-01-01 (大正 11 年)
								1	田村豊吉	山口		3285										1922-01-01 (大正 11 年)
								17	同上			6377										1916-01-01 (大正 5 年)
								33	同上			6381										1916-01-01 (大正 5 年)
T2									田村繁太郎	広島		未発見										
								1	田上友吉	熊本		3285										1922-01-01 (大正 11 年)
								2	同上		3286											1922-01-01 (大正 11 年)
								11	谷知見吉	高知		3282										1922-01-01 (大正 11 年)
								1	同上		3285											1922-01-01 (大正 11 年)
								41	同上		6377											1916-01-01 (大正 5 年)
									國田勲一	佐賀		未発見										
									曾我部淺次	愛媛		未発見										
									香川義秀	香川		3281										
								5	同上		6815											
								14	中村佐市	山口		3282										
								1	同上		3285											
								10	同上		6969											
								15	上野晋一	熊本		3282										
								1	同上		3285											
								10	同上		6378											
								38	同上		6381											
								16	上野二三		3282											
								5	同上		6378											
								37	同上		6381											
								1	同上		6572											
								12	同上		2251											
								7	同上		2252											
									野一幸蔵	徳島		未発見										
T3								6	同上		3282											
								1	同上		3285											
								16	同上		6368											
T2									野坂守吉	山口		未発見										
									藤田勇雄	広島		未発見										
								4	同上		3286											
								24	同上		6378											
								43	同上		6381											
								4	同上	熊本		3282										
								35	同上		6377											
								41	同上		6381											
									松本用浩			未発見										
								2	同上		3282											
								1	同上		3285											
								23	同上		6378											

								6381	1		4 松本民政官有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
							未発見					
							未発見					
							未発見					
T8					愛媛		3281	23		12	西口鶴八豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
T3					山口		3283	9		7	小泉信判豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
					熊本		3285	1		915	小泉信判有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
					山梨		6374	7		4	小泉信判有原野豫約買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
T2					徳島		3283	10		7	尾坂政太郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							3285	1		915	尾坂政太郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							6374	4		4	尾坂政太郎有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
					高知		3285	1		915	小松兼太郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							3286	6		7	小松兼太郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							3774	9		未公開	小松兼太郎申請詳合案	1924-05-01 (大正 13 年)
							6377	37		8	小松兼太郎有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
							6381	5		4	小松兼太郎有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
					広島		3292	2		未公開	枝川甚吉豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							6377	8		8	枝川甚吉有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
							6381	6		4	枝川甚吉有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
					熊本		3286	7		915	小松兼太郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							6386	18		7	寺川角太有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
					山口		3285	1		915	安達竹雄豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							3286	8		7	安達竹雄豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							6376	36		8	安達竹雄有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
T2					徳島		未発見					
T6					福岡		3283	11		14	淺田與助豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							3286	9		7	淺田與助豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
T2					山口		3285	1		915	三分一秀行豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							3292	3		未公開	三分一秀行豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
					熊本		未発見					
							未発見					
					北海道		未発見					
					山口		3287	19		7	木下良太郎豫約開墾地成功買渡報告	1922-02-01 (大正 11 年)
					熊本		3283	13		7	水上喜一豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							6378	6		915	水上喜一豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							6381	14		8	山下祐市有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
							3283	14		4	水上喜一有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
							3285	1		7	日高藤一豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							6386	17		915	日高藤一豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
					福井		3281	22		7	日高藤一有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
							6378	25		7	平井廣吉豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
					佐賀		3283	15		8	平井廣吉有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
							3285	1		915	持永萬吉豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							6380	45		4	持永萬吉有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
T3					愛媛		3285	1		915	鈴木廣祐豫約開墾地成功買渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
							6376	4		8	鈴木廣祐有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
					熊本		6380	44		4	鈴木廣祐有原野豫約買渡報告	1916-01-01 (大正 5 年)
T4							未発見					

花運港鷹野田村字山下

T4	砂田保治	鹿塚	3284	13	未公開	砂田保治豫約開墾地成功賣渡報告	1922-01-01 (大正 11 年)
T3	米田亨藏	熊本	未発見				
	井本寅之助	山口	6673	11	未公開	井本寅之助外百五十五名官有水面使用許可	1919-01-01 (大正 8 年)
	同上		6822		275	井本寅之助官有原野豫約開墾賣渡許可、一九零八二冊三分冊七リ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6983	1	未公開	井本寅之助原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	伊藤太郎吉	福岡	6983	1	未公開	井本寅之助原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		6822	1	275	伊藤太郎吉官有原野豫約開墾賣渡許可、一九零八二冊三分冊七リ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6982	1	未公開	伊藤太郎吉原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T7	伊勢崎新一	東京	3293	3	未公開	伊勢崎新一原野豫約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	同上		6983	1	未公開	伊勢崎新一原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		6983	1	未公開	伊勢崎新一原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T11	井谷多賀藏	徳島	未発見				
T12	二瓶今朝五郎	宮城	3045	10	未公開	二瓶今朝五郎豫約開墾地成功賣渡報告	1920-01-01 (大正 9 年)
T6	刀禰春松	北海道	未発見				
T3	大谷金平	愛媛	6822	1	275	大谷金平官有原野豫約開墾賣渡許可、一九零八二冊三分冊七リ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6982	1	未公開	大谷金平原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		6982	1	未公開	大谷金平原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	和田茂	山口	1431	15	2	專賣局技手和田茂兼任苗圃職技手	1908-02-01 (明治 41 年)
	同上		1117	2	3	專賣局技手兼專賣局屬和田茂臺灣總督府技手任用ノ件、若林又藏臺灣總督建築事務委託ノ件	1905-01-02 (明治 38 年)
	同上		5752	11	4	和田茂建築事務所	1914-01-01 (大正 3 年)
	片岡正男	広島	6822	1	275	片岡正男官有原野豫約開墾賣渡許可、一九零八二冊三分冊七リ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6983	1	未公開	片岡正男原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		6983	1	未公開	片岡正男原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	筭井實二	山口	未発見				
T7	金光武助	広島	6822	1	275	金光武助官有原野豫約開墾賣渡許可、一九零八二冊三分冊七リ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6982	1	未公開	金光武助原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		6982	1	未公開	金光武助原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T7	米川カオリ	熊本	未発見				
T3	谷本善太郎	香川	6822	1	275	谷本善太郎官有原野豫約開墾賣渡許可、一九零八二冊三分冊七リ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6983	1	未公開	谷本善太郎原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		6983	1	未公開	谷本善太郎原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	田坂三一	山口	6822	1	275	田坂三一官有原野豫約開墾賣渡許可、一九零八二冊三分冊七リ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6982	1	未公開	田坂三一原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		6982	1	未公開	田坂三一原野豫約賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T4	田中タツ	福岡	6971	14	未公開	田中タツ官有森林原野豫約開墾報告	1921-09-01 (大正 10 年)
	玉浦重一	香川	6982	1	未公開	玉浦重一原野豫約開墾賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T10	高橋寅太郎	岡山	4442	72	未公開	高橋寅太郎外上一名解雇ノ件	1903-05-01 (明治 36 年)
	同上		4465	85	8	高橋寅太郎、謝幸、莊玉三ノ雇ニ採用	1903-05-01 (明治 36 年)
T11	田坂林徳	山口	未発見				
T3	中野新之丞	山口	6822	1	275	中野新之丞官有原野豫約開墾賣渡許可、一九零八二冊三分冊七リ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6982	1	未公開	中野新之丞原野豫約開墾賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		6982	1	未公開	中野新之丞原野豫約開墾賣渡許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T7	中野巖	山口	3293	5	7	中野巖豫約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	同上		6982	1	未公開	中野巖原野豫約開墾地成功賣渡報告	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		10254	36	4	中野巖任總督府屬	1937-08-01 (昭和 12 年)
T3	中本兼一	山口	未発見				
T6	中野正行	山口	3285	1	91.5	中野正行豫約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)

T11	同上			6983	1	未公開	中野正行原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上			10263	a17	20	中野正行任付鳳、米穀局勤務ノ命ス	1939-08-01 (昭和 14 年)
T3	中野藤一			未発見				
	村中健一			未発見				
	村田健藏			6822	1	275	村田健藏官有原野像約買渡願許可、一九〇八二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上			6983	1	未公開	村田健藏原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	矢野昇		香川	未発見				
	山田藤市		福岡	6822	1	未公開	矢野系七官有原野像約買渡願許可、一九〇八二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
T7	村尾熊四郎		佐賀	未発見		未公開	山田藤市原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T3	舛本金治郎		山口	6982	1	未公開	舛本金治郎原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上			6982	1			
T5	前川元次郎		香川	3285	1	915	前川元次郎原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1922-03-01 (大正 11 年)
	同上			6983	1	未公開	前川元次郎原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T3	藤本勝平			未発見				
	藤浦文輔		山口	6822	1	275	藤浦文輔官有原野像約買渡願許可、一九〇八二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
	香西千太郎		香川	6822	1	275	香西千太郎官有原野像約買渡願許可、一九〇八二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
	手塚萬吉		佐賀	6822	1	275	手塚萬吉官有原野像約買渡願許可、一九〇八二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
T11	手塚萬吉			未発見				
T3	貞島徳市			6982	1	未公開	貞島徳市原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	清水喜次郎		広島	未発見				
T8	藤淵半次		香川	未発見				
T11	宮崎鼎		熊本	未発見				
T3	品川友次郎		福岡	6822	1	275	品川友次郎官有原野像約買渡願許可、一九〇八二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上			6983	1	未公開	品川友次郎原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T11	品川友次			未発見				
T3	仙波善一郎		愛媛	未発見				
T10	仙波勤三郎			未発見				
T12	伊藤源太郎		山口	未発見				
T13	片山又五郎		福岡	未発見				
	伊藤角次			未発見				
	下元清次		高知	未発見				
	伊藤榮治		新潟	未発見				
	桑原美喜		熊本	未発見				
T4	井上新平		福岡	6823	1	310	井上新平官有原野像約買渡願許可、第十九巻ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		佐賀	6976	3	13	井上新平原野像約買渡願許可及成功期間延期	1921-01-01 (大正 10 年)
T11	藤山辰一			未発見				
T3	鬼塚彌好		福岡	未発見				
	鬼塚佐五郎			6823	1	310	鬼塚佐五郎官有原野像約買渡願許可、第十九巻ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上			6983	1	未公開	鬼塚佐五郎原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	神山福市		東京	6823	1	310	神山福市官有原野像約買渡願許可、第十九巻ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上			6983	1	未公開	神山福市原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T4	大石進		福岡	6823	1	310	大石進官有原野像約買渡願許可、第十九巻ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上			6983	1	未公開	大石進官有原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	大谷寛太郎		愛媛	6823	1	310	大谷寛太郎官有原野像約買渡願許可、第十九巻ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上			6982	1	未公開	大谷寛太郎原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T5	奥野梅吉		香川	未発見				
T3	船原新太郎		広島	6822	1	275	船原新太郎官有原野像約買渡願許可、一九〇八二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上			6982	1	未公開	船原新太郎原野像約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	川藤佐一郎		福岡	未発見				
T4	川野小太郎			6823	1	310	川野小太郎官有原野像約買渡願許可、第十九巻ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)

花蓮港藤林田村字中野

T7	木村久五郎	福岡	3293	11	7	木村久五郎後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T6	同上		6983	1	未公開	木村久五郎原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T3	江頭順吉		6983	1	未公開	江頭順吉原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T12	早川平市	徳島	未発見				
T3	平井太平	徳島	未発見				
T3	森井平三郎	北海道	6823	1	310	森井平三郎官有原野後約開墾賣渡許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
T4	同上		6983	1	未公開	森井平三郎原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	森田竹一	佐賀	6823	1	310	森田竹一官有原野後約開墾賣渡許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6983	1	未公開	森田竹一原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-10-01 (大正 10 年)
T13	奥本寛作	広島	未発見				
T12	奥野助一	香川	未発見				
T16	巖山肇助	宮城	未発見				
	井上市太郎	佐賀	3285	1	915	井上市太郎後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	同上		6983	1	未公開	井上市太郎原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		7209	5	16	花蓮港林田村井上市太郎外一人官有地買下許可ノ件	1924-07-01 (大正 13 年)
T3	浦田米吉	熊本	6823	1	310	浦田米吉官有原野後約開墾賣渡許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6983	1	未公開	浦田米吉原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-10-01 (大正 10 年)
T10	齊藤巳吉	岡山	未発見				
T3	金子孫太郎	岡山	未発見				
	石貫ミヨ	熊本	6823	1	310	石里敏次郎官有原野後約開墾賣渡許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	石里敏次郎	福岡	6982	1	未公開	石里敏次郎原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		6823	1	310	今村關太郎官有原野後約開墾賣渡許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	今村關太郎		6982	1	未公開	今村關太郎原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T6	原朝枝	徳島	未発見				
T3	原忠藏	福岡	6823	1	310	原忠藏官有原野後約開墾賣渡許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6982	1	未公開	原忠藏原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T5	西村啓三郎	香川	未発見				
	西野敏治	徳島	6983	1	未公開	西野敏治原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	西村傳		3285	1	915	西村傳後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	同上		6983	1	未公開	西村傳原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-10-01 (大正 10 年)
T3	柳屋清助	福岡	未発見				
	千松親治	岡山	6823	1	310	千松太三郎官有原野後約開墾賣渡許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
	同上		6982	1	未公開	千松太三郎後約開墾地成功賣渡報告	1921-09-01 (大正 10 年)
T5	大西兵吉	徳島	3285	1	915	大西兵吉後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	同上		6971	14	未公開	大西兵吉官有森林原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
T6	岡本徳太郎	熊本	1560	69	5	岡本徳太郎雇フ命ス	1909-05-01 (明治 42 年)
	同上		4920	35	3	岡本徳太郎三等機關士充狀下付ノ件	1906-03-01 (明治 39 年)
	同上		6971	14	未公開	岡本徳太郎官有森林原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
	同上		6982	1	未公開	岡本徳太郎原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		7033	3	7	岡本徳太郎投致状書裏下付	1921-01-01 (大正 10 年)
T10	神村庄一	山口	未発見				
T6	藤田藤齋	熊本	未発見				
T5	河野嘉兵衛	広島	未発見				
T5	加藤彦次郎	熊本	未発見				
T9	柿谷松平	佐賀	3293	13	6	吉田秀人後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	吉田秀人		6983	1	未公開	吉田秀人原野後約買渡願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
	同上		3285	1	915	吉田好入後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
	吉田好入	福岡	6971	14	未公開	吉田好入官有森林原野後約買渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
T3	田中梅吉		6823	1	310	田中梅吉官有原野後約開墾賣渡許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)

花蓮港巖林田村字北林

T8	同上	同上	徳島	6982	1	未公開	田中梅子原野後約開墾願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T9	高島徳吉	同上	徳島	6983	1	310 未公開	高島徳吉原野後約開墾願許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
T10	高島徳吉	同上	徳島	6982	1	未公開	高島徳吉原野後約開墾願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T11	棚倉ハル子	同上	熊本	6983	1	310 未公開	棚倉ハル子官有原野後約開墾願許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
T12	田中小平	同上	福岡	6982	1	275 未公開	田中小平官有原野後約開墾願許可、一九卷ハ二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
T13	同上	同上	福岡	6982	1	未公開	田中小平原野後約開墾願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T14	田中勲兵衛	同上	熊本	未発見				
T15	土田安治	同上	新潟	未発見				
T16	土田安治	同上	福岡	3293	14	8	中山常蔵後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T17	同上	同上	福岡	6982	1	275 未公開	中山常蔵官有原野後約開墾願許可、一九卷ハ二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
T18	幸田美代吉	同上	佐賀	未発見				
T19	村木下七	同上	熊本	未発見				
T20	同上	同上		3293	15	8	上野長次郎後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T21	同上	同上		6982	1	未公開	上野長次郎原野後約開墾願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T22	内海七五郎	同上	広島	未発見				
T23	野瀬一郎	同上	福岡	未発見				
T24	倉澤由松	同上	秋田	未発見				
T25	丸林嘉治	同上	福岡	未発見				
T26	丸林嘉一郎	同上		6982	1	275 未公開	丸林嘉一郎官有原野後約開墾願許可、一九卷ハ二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
T27	松田圭男	同上	山口	未発見				
T28	松田幸雄	同上		6982	1	275 未公開	松田幸雄官有原野後約開墾願許可、一九卷ハ二冊三分冊セリ	1920-01-01 (大正 9 年)
T29	藤本熊一	同上		未発見				
T30	藤原又吉	同上	徳島	3285	1	915 未公開	藤原又吉後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T31	藤村佐太郎	同上	広島	6983	1	310 未公開	藤村佐太郎官有原野後約開墾願許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
T32	同上	同上		6983	1	未公開	藤村佐太郎原野後約開墾願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T33	坂井善八	同上	佐賀	未発見				
T34	樽村中一	同上	徳島	未発見				
T35	木野生蔵	同上	熊本	6983	1	310 未公開	木野生蔵官有原野後約開墾願許可、第十九卷ヨリノ續	1920-01-01 (大正 9 年)
T36	清本近	同上	香川	未発見				
T37	三上米太郎	同上		3285	1	915 未公開	三上米太郎後約開墾地成功賣渡報告	1922-03-01 (大正 11 年)
T38	同上	同上		6983	1	未公開	三上米太郎原野後約開墾願許可及成功期間延期ノ件	1921-09-01 (大正 10 年)
T39	同上	同上		6983	1			
T40	清水ソノネ	同上	山口	未発見				
T41	藤部嘉三郎	同上	福岡	未発見				
T42	今村官蔵	同上		未発見				
T43	中田米蔵	同上	徳島	未発見				
T44	森九郎太	同上	佐賀	未発見				
T45	丸森清一	同上	福岡	未発見				
T46	井上繁	同上	徳島	未発見				
T47	松岡新太郎	同上	広島	未発見				
T48	藤原金太郎	同上	徳島	未発見				

●私営移民

事業開始年月	土地権利関係	氏名	本籍	冊号	文号	画像ファイル数	文 件 名 称	日 付
W44	小作地及譲渡契	望月四方作	新潟	未発見				
T9	約地	寛田豊次郎	神奈川	未発見				
T5		太田初太郎	新潟	未発見				

新竹州桃園縣龜山莊新 路坑	T14	小作地	山中務	不明	4832	6	6	山中務看守退職一時金支給	1904-02-01 (明治 37 年)
同 中 下 龍 郡 楊 梅 庄 大 金	T14 3月	所有地	同上		10377	9	3	山中務遺業繼承讓渡ノ件	1936-01-01 (昭和 11 年)
同 觀 音 庄 新 坡 字 飛 厝	T13 2月	小作地	神戶正作	不明	未発見				
同 竹 筒 郡 後 龍 庄 後 龍	T14 10月	所有地及許可地	南千助	不明	未発見				
同 南 庄	M40 2月	所有地	民家壽名衛門	不明	未発見				
同 苗 栗 郡 須 裡 庄 花 裡	S2 2月		湯本矢太郎	不明	4978	12	6	(新竹廳「鹿香」湯本矢太郎外一名勤務演習召集免除除具狀認可及通知ノ件 (桃園廳隣縣區司令部外ニテ所)	1907-03-01 (明治 40 年)
同 新 竹 郡 香 山 庄 香 山	M40 12月		同上		5000	19	未公開	湯本矢太郎櫻井明規勳章年金支給主管引繼ノ件 (靜岡縣外一縣)	1907-03-01 (明治 40 年)
同 關 西 庄 石 岡 子	T14	所有地及許可地	福永仙松	不明	6984	1	未公開	湯本矢太郎櫻井明規勳章年金支給主管引繼ノ件	1922-01-01 (大正 11 年)
同 大 湖 郡 草 蘭 庄 内 灣	M39	小作地管理地	山田昌次	不明	2470	28	4	新竹廳鷹岩崎英作 [大正四年度第四回開羅臺灣] 小學校及公學校教員講習會筆記ノ命ス	1915-11-01 (大正 4 年)
同 中 州 北 斗 郡 二 林 庄 高	T9 12月	所有地	森田信	不明	3877	13	9	(元法院書記) 岩崎英作普通恩給證書下賜	1925-07-01 (大正 14 年)
同 賴 甲			同上		2905	1	389	[山田昌次] 官有原野豫約賣渡園許可ノ件	1918-06-01 (大正 7 年)
同 北 斗 街 西 北 斗	M32	小作地	松原一太郎	不明	2585	38	5	森田信雄臺灣公醫、著地	1916-06-01 (大正 5 年)
同 豐 原 郡 豐 原 街 翁 子	T15	所有地及小作地	同上		2891	60	6	公醫森田信雄退職	1918-09-01 (大正 7 年)
同 大 安 庄 七 塊 屏	T11	所有地	藤田忠右衛門	不明	6973	11	5	森田信雄豫約開墾地成功賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
同 大 甲 郡 大 甲 庄 大 甲	T14 12月	許可地	竹内要亮	不明	未発見		7	松原一太郎豫約開墾地成功賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
同 大 屯 郡 大 屯 庄 大 坑	T11 5月	所有地	松浦源七	不明	未発見		5	松浦源七豫約開墾地成功賣渡報告	1921-01-01 (大正 10 年)
同 龍 郡 龍 里 街 大 浦	T15 2月	小作地	中屋仲市	不明	未発見				
同 東 勢 郡 東 勢 庄 東 勢	T12	小作地	平井幸三郎	不明	未発見				
同 新 社 庄 水 庭 寮	M37 2月	所有地	福原鐵造	不明	10074	104	5	田中一郎臺灣教員檢定委員會昭和八年度臨時書記ヲ命ス	1933-06-01 (昭和 8 年)
同 新 高 郡 集 々 庄 集 々	M45	所有地及小作地	中來嘉吉	不明	10083	64	15	田中一郎任臺灣公立實業校長、六ノ九、楠中郷農村國民學校長	1935-08-01 (昭和 10 年)
同 高 郡 集 會 文 郡 下 營 庄 十	T15 11月	所有地	池田幸四郎	不明	10090	128	未公開	田中一郎依願免本官	1937-06-01 (昭和 12 年)
同 斗 六 郡 斗 六 街 大 北	M39 1月	所有地	田中一郎	不明	10090	130	未公開	田中一郎臺灣社會教育主事三任ス、高筆首六等ヲ以テ待遇セラル	1937-06-01 (昭和 12 年)
同 會 文 郡 六 甲 庄 六 甲	T3 2月	所有地	松浦重雄	不明	未発見				
同 豐 原 郡 豐 原 街 埤 頭	T10 5月	小作地	中村寛太郎	不明	未発見				
同 新 營 郡 柳 營 庄 火 燒	T10 3月	所有地及小作地	土肥源四郎	不明	2106	11	9	土肥源四郎官有豫約賣渡地分報告	1917-02-01 (大正 6 年)
同 高 雄 州 恒 春 郡 恒 春 庄	T11	所有地	傳豐次	新瀨	2736	5	30	土肥源四郎附下地代金減額ノ件	1917-10-01 (大正 6 年)
同 岡 山 郡 阿 羅 庄 九 口	T4 4月	小作地	圓善七	不明	未発見				
			大野秀次郎	兵庫	939	27	8	受恩給者天野秀次郎主管東京府ヨリ引繼ニ付大藏省へ通知ノ件	1904-09-07 (明治 37 年)
			浮田利三郎	大阪	5180	17	8	大野秀次郎官有地租繼承豫約賣渡ノ件	1909-05-01 (明治 42 年)
			野村國古	不明	未発見				
			伊藤虎之助	不明	未発見				
			菅原茂作	不明	未発見				
			菅原茂作	鹿本	未発見				

同 高橋市三城厩	T14-4月	所有地	藤澤次郎	不明	未発見				
同 那摩郡長興庄徳協	T15-7月		龜田佐太郎	不明	未発見				
同 那摩東街	T15-5月	小作地	右山虎藏	熊本	未発見				
花濃港蘆原林區馬太鞍	T11-6月	所有地	岡豊三	佐賀	未発見				
	T8-5月		垂水榮太	愛媛	未発見				
	T11-3月		酒井良助	群馬	未発見				
	T15-5月		高木幸三郎	福島	未発見				
	S3-10月		秋貝敏樹	山口	未発見				
	T11-6月		高木幸一郎	福島	未発見				

典拠：臺灣總督府殖産局「臺灣に於ける邦人農業植民」臺灣總督府殖産局、1929年、附録「臺灣農業植民の各個別経営概要及び氏名一覽」ならびに國史館臺灣文獻館典藏數位化
<http://www.th.gov.tw/digital/digital.php> より臺灣總督府公文類纂のデータベース。